

第 6 5 回 定時社員総会資料

2019年5月31日

於 機械振興会館

一般社団法人 映像情報メディア学会

第65回定時社員総会プログラム

1. 開催日時

2019年5月31日（金） 14：00開会 機械振興会館6階 D-1,2,3 会議室

2. スケジュール

(1) 総会（14：00～15：40）

① 会長挨拶

② 開会の辞

※代議員数55名 定足数28名（定款第18条 代議員数の過半数）

出席者数	名	書面表決書提出者数	名	合計	名
------	---	-----------	---	----	---

③ 2018年度事業報告の審議

④ 2018年度決算報告の審議

⑤ 平成30年度公益目的支出実施報告の審議

（注）内閣府提出書類のため和暦表示

⑥ 2018年度監査結果報告

⑦ 2019年度事業計画・予算の審議

⑧ 名誉会員の推薦、新名誉会員謝辞

⑨ 選奨選考報告・受賞者発表・賞状賞牌贈呈

⑩ 受賞者代表挨拶

⑪ フェロー認定証の贈呈

⑫ 2019年度役員改選選挙結果報告・承認

⑬ 退任役員代表挨拶

⑭ 退任役員に対する謝辞

(2) 臨時理事会（15：40～15：55）6D-4 会議室

① 役員担務の確認

② 今後のスケジュールの確認

(3) 新年度役員担務の報告（16：00～）

(4) 新会長挨拶（16：05～）

(5) 閉会の辞（16：10～）

3. 特別記念講演（16：15～17：15）

講演：映像情報メディアの未来～Digital から Natural へ～

講師：川添 雄彦

4. 引継ぎ懇親会（17：30～）

① 退任会長挨拶

② 新会長挨拶

③ 乾杯

④ 閉会の挨拶

以上

2018年度事業報告

1. 総括（担当：高村総務理事）

本学会は、テレビ放送や通信ネットワーク等の放送通信の媒体、情報処理・通信・撮像・記録・表示のハードウェア・ソフトウェアに関する技術、立体映像やバーチャルリアリティに関する技術、そしてコンテンツの生成と流通に関する学術振興並びに研究開発の発展に貢献する役割を担っています。その目的を達成するため、機関誌、論文集の刊行、年次大会や冬季大会、研究会、講演会等のさまざまな事業活動を行っています。これらの事業活動には、理事会のほか、専門の分野を担当する委員会を設置して、学会活動の円滑な運営に努めています。

本年度は、2018年5月総会において、下記の基本施策を設定し、学会活動を進めてきました。

- ・学会の体制強化と活性化
- ・広報活動の強化と会員サービスの向上
- ・新分野の開拓と他学会との連携

2018年度当初の設定目標は以上の通りですが、2018年度の終了を迎え、上記の各計画項目の達成状況は以下のようになりました。

<2018年度事業計画と達成状況>

(1) 学会の体制強化と活性化

事業計画は「2017年度に取り纏めたアクションプランおよび申継事項を参考にして、2018年度の学会運営体制についても、17名の理事を中心メンバーとした13の委員会を設置し、理事会と各委員会の情報共有の環境を整備しつつ、新年度の活動を進める。理事会においてもアクションプランの中間・最終報告、施策の継続・終了判断を通じたコミットメント重視の委員会運営を目指す。」というものでした。

達成状況は以下のとおりです。

各委員会の運営にはアクションプランを導入し、1年間の目標とスケジュールを明確にしたうえで7月から事業活動を開始し、11月に中間報告、2019年4月に最終報告という形でその進捗と次年度への申し送り事項を整理し理事会に報告しました。委員会報告は表形式となっており、各課題の説明とそれに対する対応状況、継続/終了状況が一目で分かるようになっていました。各委員会においては、当該年度の進捗を把握しやすく、次年度に向けての課題整理が容易になりました。また、今年度も副会長と総務担当理事による理事会前の議事進行打合せ（総務会）を実施し、直後の理事会の効率的な運営を推進しました。

テストチャートの頒布については、2016年1月に「超高精細・広色域標準動画像Aシリーズ」の頒布を皮切りに、以降、2017年11月に「超高精細・広色域標準動画像Bシリーズ」、「三次元マルチチャンネル音響標準音源Aシリーズ」の頒布を開始しました。その後要望の多かったHDR版の制作を2018年度に実施し、2019年3月に「超高精細・広色域HDR版標準動画像(Cシリーズ)」の頒布を開始しました。新シリーズのテストチャートの売り上げは順調であり、2019年3月末時点で対予算額の126%を達成しました。次年度も収益の柱として見込まれるため、積極的に販売促進活動を進め、また高フレームレート(8K120P, 240P等)を対象とする標準動画像Dシリーズの制作の検討を進めていきます。

2012年度から開始した公益目的支出計画は、当初の終了予定年度であった2017年度から実施計画の1年延長申請を行い今年度無事消化済みとなりました。

学会予算は当初黒字を目指しておりましたが、税金などの支出計上により2018年度は280万円の赤字となりました。2018年度までは公益目的支出計画申請時の配賦率に拘束されてきましたが、2019年度以降は新たに必要経費の見直しが可能となるため、必要経費のさらなる計上等により税金が減少するものと予想しています。また、研究会の参加費徴収の可能性を検討し、収入増につながるものと考えています。

学会の在り方や会員増強策については、長期計画検討委員会がリストアップした、学会を継続していくために必要な中長期の課題（活性化課題リスト）に基づき、学会活性化委員会を中心として各委員会によりそれぞれの課題への取り組みを進めました。こちらについてもアクションプラン同様リスト項目の進捗確認と継続判断を行いました。

2018年度も本部役員が北海道支部を除く支部大会に参加して対話活動を行う施策を継続し、本学会における事業運営の課題を共有するとともに、支部との連携強化を図り、学会全体の活性化を図りました。

(2) 広報活動の強化と会員サービスの向上

事業計画は「会員の低減を抑止するために、会員メリットの一層の向上を目指した施策を進める。」という

ものでした。

達成状況は以下のとおりです。

映像情報メディア学会技術報告のオンライン化については、2018年3月の試行運用を経て4月より本格運用を開始しました。オンライン化によって従来から要望の多かった原稿のカラー化が実現でき、グラフや画像等の視認性が大きく向上しました。

学会が提供する賞の周知活動については、技術委員会や各研究委員会、民放系列局への依頼を徹底することで応募件数の増加が見られました。コンテンツ技術賞については、選考専門部会の開催地を一昨年度までの東京から関西圏で実施することに見直しました。この施策により、関西圏および関西以西のローカル局の応募が2年連続で増加しました。次年度以降も東京以外(関西や東海)での開催を検討します。さらなる応募増を図るためアカデミックパートナーや放送局以外の維持会員社まで範囲を拡大して実施しました。その他、年次大会と冬季大会の会場で今年度フェロー認定された5名の方を講師に招き、フェロー記念講演を実施しました。

また、学会が頒布している標準動画像Cシリーズには、PC等で簡易に再生確認できるプレビュー的な位置づけのエンコードストリームを、無償で追加頒布することとしています。また年次大会・冬季大会において、従来は会費制であった懇親会を、無料の「技術交流会」とする新たな試みを始めたところ、従来を大きく上回る延べ215名の参加を集め、会員間のネットワークングを促進するなど会員メリットの向上が図られました。

さらに、一般非会員の年次・冬季大会参加者を一定期間本会会員扱いとし会員メリットを提供する「準会員制度」を正式に発足しました。

(3) 新分野の開拓と他学会との連携

事業計画は「本学会が最も得意とする領域である4K・8K映像技術を核として、4K・8K機材展やInterBEE(国際放送機器展)への出展も引き続き検討する一方、放送分野のみならず通信分野や医療、教育、スポーツ、AI、5Gなど、幅広い新分野の開拓に向けた研究活動を継続していく。」というものでした。

達成状況は以下のとおりです。

幅広い分野への普及活動については、年次大会や冬季大会において4K・8K技術を核とした企画セッションやデモ展示、聴講無料の公開講演会を実施しました。大会会場の金沢大学(角間キャンパス)と東京工業大学(田町キャンパス)では、4K・8K試験放送の受信公開を行い、のべ589名の来場者にスーパーハイビジョンの高精細映像と高臨場感音響を体感していただきました。さらに「ブロックチェーンの現状と今後」、「国際会議・英語論文・フィールド論文の採録への道」、「AI社会実装の拡がり」と深化、「自動運転時代の車載エレクトロニクス」などといった、ユニークかつ新しい分野をカバーする企画セッションを開催し好評を博しました。加えて、一部講演について会員向けストリーミング配信サービスの提供を開始しました。

他学会との連携強化では、日本写真学会・日本印刷学会・日本画像学会・IS&Tおよび当会が共催、日本視覚学会・画像電子学会が協賛の国際会議ICAI2020の実施に向けた作業を開始しました。また電子情報通信学会・電気学会・情報処理学会・照明学会とは連絡協議会を年2回開催し、活発な情報交換を継続しています。さらに、米国SIDとの国際会議IDWを毎年日本で共催しており、2018年12月の名古屋開催では1376名もの参加者を集めました。

地域との連携強化では、年次大会において企画セッション「金沢の映像・モノづくり業界」、初の試みとして地元も含む企業を招いた展示「ITE併設展示会」を開催し好評を博し、2019年度も実施の方向で検討しています。また、東京都小金井市の東京農工大学科学博物館において2018年10月～12月地域密着型の特別展「放送技術のこれまでと将来」を開催しました。

海外との連携強化では、ブラジルSETからは2019年5月に会長が来日し、当会幹部との意見交換を行います。韓国KIBMEからは2018年5月に幹部が訪日し意見交換を行ったほか、昨年度からそれぞれの年次大会で相互に講師派遣を行っており、2018年8月の当会年次大会においてKIBMEとの日韓ジョイントセッションおよびKIBME招待講演を開催しました。今後も両団体とはUHDTV放送に関する技術開発やIP技術の活用について意見交換を実施していきます。

以上の施策を通じて学会のプレゼンスを向上させるとともに、財政基盤の安定化と会員サービスの充実を図ってきました。2018年12月には、新4K8K衛星放送が始まりました。放送というメディアを通じて超高精細映像や高臨場感音響が一般家庭にも入ってきます。さらに、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けては、人工知能(AI)を活用した番組制作技術の高度化や通信ネットワークを活用した様々なコンテンツの提供がなされるでしょう。本学会は、放送や通信を取り巻くこれらの技術分野の発展に貢献していきます。

2. アクションプランの設定内容と達成状況

2018年度に設置された13の各委員会のアクションプランとその進捗・成果の概要を以下に示します。

① 学会活性化委員会（委員長：熊澤逸夫）

学会活性化委員会は、2016年度から2018年度までの時限研究会として、学会活動の分野拡大、会員増、収益増、会員向けサービスの充実などの施策の提案を主な目的として、委員会横断的に活動しています。最終年度である2018年度は、2020年の創立70周年記念事業に向けた実施内容、実施体制、開催時期や規模、テーマ等の事前検討を行いました。また当委員会の下に「展示検討WG」を設置し、東京農工大学科学博物館において「特別展：放送技術のこれまでと将来」として2018年10月27日(土)～12月15日(土)の期間、成功裏に展示ならびに体験イベント・講演会を行いました。

学会活性化のための新たな施策として、潜在的な会員へ当会のメリットを伝え会員の増加へ導く施策として、非会員の大会参加者を一定期間会員扱いとする「準会員制度」を正式に発足しました。本委員会の活動は2018年度で終了となります。

② WebIT化委員会（委員長：高木康博）

SNSによる情報発信の質・量を高めていくための方策については、従前よりSNS(Facebook, Twitter)とホームページ、メールマガジンが連携するシステムを構築しており、これを用いた情報発信について問題なく実施できていること、また、SNSとWebzine、会誌との連携についても運用でカバーしつつ実施できていることを確認しました。今後も基本的に現状の運用体制の維持をベースとしつつ、他委員会と連携してさらなる改善に向けた検討を行うこととしました。

継続検討課題となっているマイページ機能については、2018年6月より日本工学会において新たにマイページ機能等を有する「会員管理システム」構築の検討が進められており、完成の暁には各学協会にて有償利用可能となることから、システム構築の推移を見守ることとしました。

③ 広報委員会（委員長：熊澤逸夫）

WebITを活用した広報活動として、昨年度同様、SNS(Facebook, twitter)とホームページ、メールマガジンが連携するシステムをベースに適宜情報発信を行いました。またWebzine、会誌ニュースとSNSとの連携も行いました。

東京農工大学科学博物館において、特別展「放送技術のこれまでと将来」(10月27日～12月15日)を開催しました。日本におけるテレビ放送の黎明期から12月に本放送が開始された最新のスーパーハイビジョンまで放送技術に関する展示を行いました。「大科学実験」と「チョコちゃんに叱られる」に関する講演会や中継車を使った体験教室や報道局編集長体験などを行いました。8Kスーパーハイビジョンのパブリックビューイングを実施しました。期間中の来館者数は約4,000人でした。

業界展示会を通じた広報活動として、例年通りInterBEE2018(11月14日～16日開催)にて本学会ブースを設置し、本学会のPRに加えて標準動画像(特にCシリーズ)、三次元マルチチャンネル標準音源のPRを行いました。また、第1回4K8K機材展(4月4日～6日開催)においても本学会ブースを設置し、本学会および標準動画像BシリーズのPRを行いました。

④ 年次・冬季大会実行委員会（年次大会委員長：三谷公二 冬季大会委員長：熊澤逸夫）

2018年映像情報メディア学会年次大会は、8月29日(水)～8月31日(金)の3日間の日程で、金沢大学角間キャンパスで開催されました。一般講演140件(招待講演1件、フェロー記念講演3件含む)、公開講演会1件セッション6件、特別企画6セッション23件、併設展示10件(8Kスーパーハイビジョンコンテンツデモ1件含む)で構成され、3日間の延べ参加人数は1041人(併設展示を除く)と、ここ数年とほぼ同程度でした。

放送事業者および映像コンテンツという当学会の特長を活かした企画として、公開講演会「次世代放送の取り組み～新4K8K衛星放送開始前夜～」を実施し、大講義室がほぼ満席となる程の盛況ぶりでした。また、8Kコンテンツデモや、放送に関連した企業9社による併設展示も行われ、新4K8K放送を間近に控えてのテレビジョン技術の進展や完成度を来場者に実感して頂きました。更に、昨年に引き続き、韓国放送メディア技術学会KIBME(The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)からの招待講演を実施するとともに、新たな試みとして、日韓ジョイントセッションを実施し、放送・コンテンツに

関わる技術交流のグローバル化を促進しました。

新たな分野の育成（スポーツ映像処理など）、新たな業種の取り込み（コンテンツ流通や多様なメディア、スタートアップ企業等）を狙った施策として、特別企画「スポーツ観戦を変える超臨場感技術」、特別企画「ブロックチェーンの現状と今後～コンテンツ流通など様々な分野への適用可能性～」、特別企画『「伝統工芸・芸能」だけじゃない！？金沢の映像・ものづくり業界』、特集テーマ企画「AI 技術の産業応用」を実施し、新たな分野、業種への展開を図りました。また、学生、若手向けの企画として特別企画「国際会議・英語論文・フィールド論文の採録への道」を実施し、今回から同講演ビデオの会員向けストリーム配信にも新たに組み込みました。

大会運営に関する取り組みでは、会場大学からの大会運営参加の継続実施に加え、新たな施策として、地方学生の参加を促すための北陸支部圏内の大学・高専学生の聴講参加費無償化や、支部企画セッションの聴講無償化、参加者同士のコミュニケーションを一層促進するための技術交流会の参加費無償化を導入しました。また、幅広い層の会員に参加を促し会員数減少の抑制につながる施策として、エグゼクティブ会員の聴講参加費の優遇や、新たにフェローに認定された方の講演会を継続実施しました。

一方、2018年映像情報メディア学会冬季大会は、12月20日（木）～21日（金）の2日間の日程で、東京工業大学キャンパスイノベーションセンターで開催されました。一般講演96件（フェロー記念講演2件含む）、特別企画としてシンポジウム講演28件、デモ展示2件で構成され、2日間の延べ参加人数は728人と、例年とほぼ同程度でした。

当学会の特長を活かした企画として、サービス運用を開始したばかりの新4K8K衛星放送に関連した特別企画として、「4K8K時代の映像アーカイブ」、「HDRへの取り組みとその制作手法」のシンポジウム講演や8Kコンテンツのデモセッション、AIシンポジウム等の企画、前年度受賞案件によるデモセッションを実施するなど、クオリティの高い展示を企画し、集客を図りました。あわせて、11月に頒布受付を開始した標準動画Cシリーズの周知、販促を行いました。

新たな分野の育成、新たな業種の取り込みを狙った施策としては、「自動運転時代の車載エレクトロニクス」、「日米欧における起業工学事情」を特集テーマとしたシンポジウムを企画し、新業種の集客を図りました。

大会運営に関する取り組みでは、年次大会の一部施策と同様に、会場大学からの運営参加や会場学生の聴講参加費無償化、エグゼクティブ会員の聴講参加費の優遇、技術交流会の参加費無償化を実施しました。また、大会広報活動の強化施策として、学会メーリングリストでの案内・周知に加えて、今回新たに、研究員会ごとのメーリングリストなどで大会全体および各研究委員会担当の企画セッションの案内・参加勧奨を行いました。

⑤編集委員会（編集長：八木伸行）

昨年度から引き続き満足度を向上させる企画作りと情報提供の強化に向けて、定期的で開催される編集委員会および部門委員会で、様々な観点から学会誌の在り方および提供情報内容について検討・議論を行い、施策を進めました。

2015年7月号から学会誌を隔月発行とし、編集経費の大幅な圧縮を行った上で、学会誌が学会員と学会を結ぶ重要な役割を担っていることを鑑み、多様な学会員のニーズに応えるとともに、会誌内容を大きく削減することなく、より充実した情報内容の提供を心がけてきました。利便性を高めるためWebページからダウンロードによる閲覧可能にするとともに、2019年1月号から学会誌表紙デザインを刷新しました。加えて、メールマガジンによる学会誌目次の配信等を通じて、学会員に対するタイムリーでコンスタントな情報提供を図っています。海外文献部門とニュース部門はWebでの情報提供を行ってきましたが、情報をより広く学会員に届けるために、2019年1月号から海外文献紹介について学会誌への掲載も始めました。

<各部門の検討内容と結果>

(1) 会誌部門

学会誌のページ数を考慮したうえで、会誌アンケート、代議員モニタ、支部長会議、研究委員会等からの要望を汲み取り、学会誌の品質の維持と学会員からのニーズに十分に答えられる会誌作りに努めました。具体的には、特集、技術解説、研究動向、話題、講座等を魅力ある内容とすると共に、記事間のバランスにも配慮した編集方針で運営し、今年度（2018年5月号～2019年3月号）は、特集11編、技術解説や解説記事21編、それ以外にも多数のシリーズ企画を掲載し、タイムリーな情報を学会員に提供しました。

一方で、シリーズ企画の再検討を行い、アンケート評価の高い「輝け！リケジョ」、昨年度開始した「ベンチャービジネス」は、現状のまま毎号掲載を継続し、その他のシリーズについては、掲載頻度を減らして継続することとしました。また、引き続き、相乗効果によって学会活性化と学会員の満足度向上に資するよう、学会内の様々な委員会やイベントと会誌の連動企画を検討しました。今年度は、論文委員会との企画や年次大会との連動企画、学会共催イベント「農工大科学博物館特別展」の記事を会誌に掲載しました。加えて、学会誌に新しい魅力を加えるべく、新連載講座「放送業界における IP 化」を 2019 年 3 月号から開始しました。

(2) 海外文献部門

海外文献収録情報を Web ページに掲載するとともに、情報をより広く学会員に届けるために、2019 年 1 月号から学会誌への掲載も開始しました。

(3) ニュース部門

ニュース記事選定基準が委員ごとに必ずしも同一でないため、内容が特定の分野（材料・素材等）に偏る傾向がありました。選定方針について委員間で議論を行い、選定指針を明文化しました。また、ニュース記事に関連する分野ごとに分類していますが、その分類表の見直しを進めました。

⑥ 論文委員会（委員長：佐藤洋一）

2018 年度の論文委員会の構成は、佐藤洋一委員長（和文論文編集委員会委員長，MTA 編集委員会委員長兼務）、和文論文編集委員会副委員長の森本正志委員と瀧口吉郎委員，MTA 編集委員会副委員長の小川一人委員と内藤整委員，編集担当理事（1 年目）の伊藤泉委員，編集長の八木伸行アドバイザーの 7 名でした。幹事には、小川一人委員が指名されました。

6 月の新体制後の委員会では、活動方針、現況把握、特集号の企画などの確認を行うとともに、情報発信の強化策を検討しました。また、論文委員会の規定変更（和文論文運営委員会，MTA 運営委員会の呼称変更）について議論し素案を作成しました。11 月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行うとともに、論文賞選考手順の確認を行いました。2 月の委員会では、投稿・掲載状況、特集号の企画提案状況の確認を行うとともに、論文賞候補を和文論文，MTA 論文からそれぞれ 3 編、合わせて 6 編の論文を選定し、各論文の推薦書を作成しました。2018 年の 7 月の理事会にて、和文論文運営委員会と MTA 運営委員会は、それぞれ和文論文編集委員会と MTA 編集委員会に名称変更されました。以下に、各論文誌に関わるトピックを記載します。

(1) 和文論文関係

- ・ 2018 年度（2018 年 5 月号～2019 年 3 月号の計 10 号）は、38 編の論文等を掲載しました（論文 24 編（招待論文 9 編含む）、研究速報 7 編、フィールド論文 2 編、これすぼんです 1 編、特集巻頭言 4 編）。（参考：2017 年度の掲載数は論文 24 編（招待論文 8 編含む）、研究速報 11 編、フィールド論文 1 編、特集巻頭言 3 編）
- ・ フィールド論文の投稿増を図るために、フィールド論文の勸奨を行う講演を年次大会で、小川一人幹事が行いました。また、この講演をベースにした記事を、学会誌 2019 年 1 月号に掲載しました（小川一人幹事執筆）。
- ・ 和文論文誌の発行回数を、月刊から隔月刊に変更しました（2019 年 1 月号より実施）。

(2) MTA 関係

- ・ 2018 年度（2018 年 7 月号～2019 年 4 月号の計 4 号）は、31 編の論文等を掲載しました（論文 27 編（招待論文 4 編含む）、特集巻頭言 4 編）（参考：2017 年度の掲載数は（論文 24 編（招待論文 10 編含む）、特集巻頭言 4 編）
- ・ 国際会議論文と同内容の論文の採録は、これまでも認めてきませんでしたが、このことを投稿規定に明確に記載する変更を行いました。
- ・ MTA も投稿勸奨を行うために、MTA の解説記事を学会誌 2019 年 3 月号に掲載しました（小川一人幹事執筆）。
- ・ MTA の創刊から現在までの活動状況を、JST の講演会で、八木伸行アドバイザーが講演しました。
- ・ Scopus のスコアが、1.00（2019 年 4 月現在）まで上昇しました。この値を維持向上させ、クラリベイト・アナリティクス社のインパクトファクタを獲得するために、引用数が多い論文の招致を進めます。また、MTA のホームページの拡充を行いました。学会の英語ホームページは現在ないため、新設することを事務局に依頼しました。海外 AE を 2 名追加し、海外 AE は 12 名になりました。これらの施策は、インパクトファクタ獲得に重要であると言われています。

⑦技術委員会（委員長：谷本正幸）

2018年4月より正式運用を開始した「研究会報告オンラインシステム」を利用した予稿PDFダウンロードサービスは、1年間を通して安定稼働しており、運用上の大きな課題も報告されておりません。また、本サービス開始にあわせて500円値上げした技報の当日販売価格に関しても、値上げによる技報の当日販売数の減少傾向はなく、大きな影響は無いと判断できる状況です。

予てより課題となっていた、研究会参加費有料化と電子化促進については、より電子化を進め他学会とも平仄を取りつつも、利便性や収支を落とさずに実施できる方策を検討していくこととし、まずは、冊子を残したまま参加費有償化案を策定する方針となりました。

スポーツ映像処理時限研究会の支援およびスポーツ評価映像等の企画検討については、評価映像の撮影を行いました。権利関係に課題があり、解消する見込みが立っていないため、取り組みを終了しています。

研究会活動の活性化に関する取り組みでは、研究会活性化費（研究会とは別の有料のセミナーやシンポジウム等の補助）の審議について、これまでの技術委員会での案件承認から、随時受け付けのメール審議も可能とすることで迅速性と柔軟性を高めました。また、研究会活性化費の利用の年度計画（各研究委員会）として、会場費や講師謝礼、参加費収入など収支の精度が見込めない場合でも多少余裕を持った支出補助の申請を可能としました。さらに、各研究委員会活動予算について、9月末までの執行率および下期修正予算案を取りまとめ、研究会間での再配分や学会への返納等を検討し必要に応じて実施することで、研究会全体として予算を有効に活用する手法を導入しました。

⑧選奨委員会（委員長：三谷公二）

学会選奨規程に基づき丹羽高柳賞については、功績賞2件、業績賞2件、論文賞3件、鈴木記念奨励賞については5件を選考しました。技術振興賞については、進歩開発賞（現場運用部門）3件、進歩開発賞（研究開発部門）3件、コンテンツ技術賞4件を選考しました。また、映像情報メディア未来賞として、2件のフロンティア賞と2件の次世代テレビ技術賞を選考しました。

昨年度からの申継事項等に対応するため、功績賞・業績賞候補者選考投票委員数を選定手続上の定数（90名前後）を満たすよう95名を確保しました。丹羽高柳賞論文賞の和文と英文（MTA）の受賞数について検討し、現状維持とすることとしました。

応募数増加の施策として、技術委員会や放送技術研究委員会、民放系列局へ選奨の応募依頼に加えて、今年度はさらにアカデミックパートナーや放送局以外の維持会員社への応募依頼も実施しました。また、コンテンツ技術賞については、ローカル局の応募増を目的として、選考専門部会を昨年度に引き続き関西で実施し、応募件数が（3件→7件→）9件と増加しました。地方開催は応募増に効果があると判断できるため、当部会では次年度以降も東京以外（関西か東海）での開催を検討します。

2019年度は選奨委員会で決定した数点の申し継ぎ事項の実施と、功績賞・業績賞の応募過小時の対応、応募増への取り組み、選考部会の可視化、選考部会での委員所属の偏り是正についての検討を行います。

⑨フェロー選定委員会（委員長：熊澤逸夫）

今年度は2回の委員会を開催し、規定の手順に従ってフェロー候補者9名を選出しました。

申継事項であるフェロー応募の増加施策については、周知、PRの充実、フェローの認知度向上に向けた施策（例えば、年次/冬季大会でのフェロー記念講演会の実施、支部大会・支部長会議・技術委員会での告知など）を継続して実施しました。その結果、応募は9件に増加しました。

委員会において、フェローの推薦および選定の過程で、推薦者や選定委員、レフリーの兼務可否が複雑な条件に基づいて判定され、混乱を生じているとの問題提起を受けて議論を進め、選定重複の不可避性バランスを考慮して規程を改定しました。

次年度への申継事項として、①フェロー施策の認知度向上については次年度以降も継続すること、②フェロー推薦件数の増加を図っていく一方、今年度の応募者が毎年の上限10名に迫ったこと、また、フェロー総数が規定上限（会員数の0.5%）に近づいていることを考慮し、総数上限規定を見直す、または、毎年の選定数上限のみを設けるなどの対処を、次年度の委員会構成前までに（第3回理事会を目処）検討すること、の2点を挙げました。

⑩テストチャート委員会（委員長：井口和久）

超高精細・広色域 HDR 版標準動画像 C シリーズの制作（17 シーケンス）を完了し、頒布価格の策定方針を決定した上で、2018 年 11 月に頒布の事前受付を開始しました。その後、室内での HDR 特性を生かした 7 シーンの追加撮影、解説書の作成、付録として付けるプレビュー用のエンコードストリームのフォーマット方針の決定、頒布メディア等の頒布方法の決定を行い、2019 年 5 月以降に頒布を開始できる準備をしました。また、標準動画像 D シリーズ以降の今後の方針については、ARIB と連携し、高フレームレート（8K 120P, 240P 等）を対象に制作計画の策定を検討する予定です。同時に、D シリーズ撮影の中で、一部、VR の試撮影することも検討する予定です。

また、三次元マルチチャンネル音響標準音源 B シリーズについては、標準動画像 C シリーズの制作を優先し、進捗はありませんでした。今後の制作方針としては、標準音源 A シリーズが、22.2ch の機器チェックや音源移動などを想定したコンテンツであることに対して、B シリーズでは、（1）エンタメ性を追求したもの（オーケストラなど）と、（2）実視聴環境を考慮したダウンミックス（7.1/5.1/3.1ch など）したものなどを中心に、検討を行っていく予定です。

標準動画像 C シリーズ含めたテストチャートのプロモーション施策としては、頒布促進・利用範囲拡大などを狙い、InterBEE でブース設置して販売促進活動を実施したほか、冬季大会、その他の学会等でも広報を行い、積極的な販売促進を行いました。

スポーツ映像に関する標準動画については、スポーツ情報処理時限研究会と連携して取り組み、評価映像の撮影まで行いましたが、権利関係のハードルが高いことから、取り組みを終了しています。

⑪国際会議検討委員会（委員長：高木康博）

国際会議の企画運営や国際間相互協力等に関する国内外の関連学協会との関係構築と維持を行うことを通じて、本学会の活性化や会員サービスの向上につとめました。

本学会が SID と共催する IDW 2018（ディスプレイ国際ワークショップ）に組織委員として参画しましたが、同ワークショップは 2018 年 12 月 12 日～14 日に名古屋国際会議場にて開催され、例年通り盛況でした。

ICAI2020(International Conference on Advanced Imaging)開催へ向けた第 1 回プレプログラム委員会が 12 月 27 日に開催されました。ICAI2020 は 2020 年 11 月 1 日～6 日、幕張メッセでの開催を予定しておりますが、2020 年は弊会が創立 70 周年記念シンポジウムを同時期に開催を予定していることから、他学会(日本画像学会, 日本写真学会, 日本印刷学会)との共催による対応は困難なため、会期中の一セッションのみの企画を担当することといたしました。

海外学会との連携については、ブラジル SET との間で年次大会時に SET/ITE 双方によるリモート講演を実施する予定でしたが、同時期に「SET EXPO 2018」を開催しているため SET 側の対応が困難となりとりやめとなりました。韓国 KIBME との間では、年次大会において KIBME からの発表者を迎え日韓ジョイントセッションを開催しました。また、韓国で放送開始した地上 4K 放送の動向について招待講演を行ったほか、KIBME 秋季大会において本学会から講演者を派遣しました。また NHK 技研公開の際に ITE/KIBME 打合せを行い、来年度以降の両学会の連携方法について意見交換を実施しました。

⑫映像情報メディア発展事業基金運営委員会（委員長：並川巖）

2018 年度は、映像情報メディア事業および本学会員のグローバルな活動展開を奨励する目的で学生の国際学会発表に対する援助を 2 件行いました。また、来年度以降に開催される学会記念イベント、及び特別展示イベントについて、発展事業基金の活用の妥当性を検討しました。さらに、支部における電気関係連合大会の優秀論文発表賞（副賞の楯製作費用、等）向けに支出し、映像情報メディア分野の発展に寄与する優秀論文をアピールしました。

⑬長期計画検討委員会（委員長：加藤久和）

日本における人口減少や本学会と関連の深い産業界の停滞感などの社会情勢の変化、また当学会の財政状態や会員数減少に歯止めがかかっていないなどの状況を踏まえて、長期視点から学会の活動を検討し、理事会に報告する目的で本検討委員会は活動しています。

昨年度は映像情報メディア学会における長期検討課題を洗い出し、それぞれの課題について、

戦略・対応策，検討推進主体，対処の優先度等を整理しました。

2018年度は，当該の課題を各委員会が優先度に応じて検討し，一部実施，その他は検討状況の確認と継続判断を行いました。また，監事が本委員会委員となる規程文言の是非が浮上したため当該席を空席のままとすることとし，2019年度委員長として本会役職経験者の就任を予定しています。2019年度も各委員会と情報を共有しながら，課題リストを更新していきます。

2018年度事業報告の附属明細書

1. 会員数の異動（2019年3月31日現在）

注：同日付退会者を「退会」に含む，同日付資格喪失者を「資格喪失」に含む

	名誉会員	正会員	学生会員 (内アカデミック学生)	維持会員	特殊会員	合計
2018年4月始	48	2704	225 (174)	186 (947口)	45	3208
入会(変更)		83	52 (33)	1 (4口)	0	136
退会(死亡)	-3	-143	-57 (30)	-5 (-9口)	-3	-211
復会			0	0	0	0
資格喪失		-70	0	-1 (-1口)	0	-71
増減	-3	-130	-5	-5 (-6口)	-3	-146
2019年3月末	45	2574	220 (177)	181 (941口)	42	3062

*アカデミックパートナー登録研究室：21研究室

2. 機関誌，論文集，英語論文誌，研究会資料などの刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

編集委員会（編集長 八木伸行）において、「映像情報メディア学会誌」第72巻第3号通巻818号～第73巻第2号通巻823号の計6号を，隔月（奇数月）1日に，年間計21,100部発行し，会員に配布しました。

今期の編集関係会議は，定例編集委員会として，企画委員会を7回，ニュース部門委員会を5回（内2回中止），海外文献部門委員会を4回，年次企画委員会を3回開催して，会誌部門・海外文献部門・ニュース部門の3部門間で情報共有を密にし，わかりやすく魅力ある会誌の編集に努めました。

今年度も特集テーマを各号2テーマとし，ページ数を厳守し，タイムリーでホットな情報提供をいたしました。また年次大会や研究会で発表される最新の情報を提供すべく，特別企画や特別講演などから企画をピックアップし，解説記事の掲載を行いました。さらに図はモノクロ掲載を推奨しておりますが，経費を考慮しつつ，読者の理解を深めるため，必要に応じカラー図の掲載をいたしました。

①J-STAGEを介したオンラインジャーナルについて

会誌冊子体部分は，例年通り発行後2ヵ年を経た，2017年3月号（Vol.71, No.3）までを全文公開しました。

②第7回「動画コンテンツ優秀賞」の選定について

2018年1月号～12月号（オンラインジャーナルも含む）に提供された会誌関連動画コンテンツの中から，次の1件を「優秀賞」に選定し，オリジナル図書カードを進呈するとともに，ホームページ上で公表しました。

〔優秀賞〕会誌2018年5月号<特集B>「漫画・線画の画像処理」

「2-1 漫画の半自動着色手法 Comicolorization」((株)ドワンゴ 古澤知英氏)

③海外文献部門委員会

2019年1月号から，会誌での海外文献紹介を開始しました。また，Webページの更新を周知する学会 facebook の投稿方法を変更しました。これまで海外文献ホームページのリンク URL のみであったところを，各文献ごとのリンク URL を投稿する形としました。これにより，facebook を経由した閲覧数がやや増加しました。

④ニュース部門委員会

ニュース記事の選定分野が特定の分野（材料・素子等）に偏る傾向があるため、多様な会員に配慮してある程度分野が分散するよう掲載候補の選定に努めました。また新しい技術に対して分類不能とならないよう、ニュース記事分類表の定期的な更新を行うことといたしました。

⑤その他の新しい試み

(a) 前年度支部長会議において、会誌表紙デザインのリニューアルの提案があり、「会誌表紙の刷新」準備をいたしました。一般よりデザイン公募を行い、6件の応募の中から編集委員会企画委員会メンバーによる投票により、次の方のデザインを2019年1月号～11月号の表紙として採用し、2019年1月号から表紙の刷新を行いました。

ペンネーム：菓子井（会社員）

(b) <講座>「放送業界におけるIP化～IP番組制作とその関連技術の解説～」の連載を2019年3月号より開始しました。

(c) 今年度も総務省関連の記事を年2～3件を目途に企画しました。引き続き総務省関連記事の企画を行います。

(d) 研究委員会、支部との連携強化をはかるため、会誌企画は今年度も各研究委員会および各支部にテーマの提案をお願いしました。また今年度は研究会企画提案2件、支部題目提案1件を会誌に掲載いたしました。今後も引き続き提案依頼を行います。

(e) 選奨受賞関連記事の企画について

丹羽高柳賞<功績賞>、<業績賞>の受賞者および本年度フェローに認定された方からの「会員へのメッセージ」を9月号に掲載しました。今後も引き続き行います。

(f) 大会との連動企画について

大会との連携を目的に、冬季大会企画セッションと連動した<特集>を企画いたします（掲載は2019年11月号予定）。今後も大会との連動企画を行います。

(g) 学会HPでの記事公開記事について

現在アクセス制限なしで全文公開をしている<知っておきたいキーワード><年報><輝け！リケジョ><研究開発ツール><話題；見聞記><報告>各欄に加え、<ベンチャービジネス>も学会HPで全文公開を行うことといたしました。公開準備が整い次第行います。

(h) 「映像情報メディア年報2019シリーズ」を、10の研究委員会・時限研究委員会により、2019年1月号から連載企画を開始いたしました。

(i) 元会長・名誉会員の追悼文の会誌掲載継続について

元会長と名誉会員の追悼文は、元会長、名誉会員の方々は、高齢者も多く、追悼文の執筆者選定に苦慮することから、追悼は継続し、掲載形式を写真と経歴にすることといたしました。

(j) 会誌のペーパーレス化により、Webのみで公開していた海外文献紹介を、2019年1月号から会誌での掲載を再開いたしました。

⑥2018年5月号～2019年3月号の特集のテーマとそのページ数

月号	欄名	テーマ	編数	頁数
2018. 5	特集A	プロジェクションマッピング技術とその応用	6	29
	特集B	漫画・線画の画像処理	6	31
2018. 7	特集	枠（フレーム）にとらわれないディスプレイ	6	25
2018. 9	特集A	視覚・言語融合の最前線	6	27
	特集B	最新シネマ事情	7	33
2018. 11	特集A	続・イメージセンサ技術の最新動向	4	21
	特集B	4K8K 最前線	9	44

2019. 1	特集A	360度VR映像に関する動向	7	37
	特集B	データ科学を支えるアクセラレーション技術	5	28
2019. 3	特集A	マシンビジョンの新展開	6	28
	特集B	特殊撮像デバイス・カメラ技術	5	28

⑦2018年5月号～2019年3月号の講座、てれび・さろん等のシリーズ連載テーマ

月号	欄名	連載テーマ	掲載回数	連載時期
2018. 5, 7, 11 2019. 1	講座	機械学習超入門	全 6回	2018年3月から継続 2019年1月終了
2019. 3	講座	放送業界におけるIP化 ～IP番組制作とその関連技術の解説～	全 6回	2019年3月から継続 2020年1月終了予定
2018. 5, 7, 11		映像情報メディア年報 2017 シリーズ	全 10回	2017年1月から継続 2018年11月号終了
2019. 1, 3		映像情報メディア年報 2019 シリーズ	全 10回	2019年1月から継続 2020年9月号終了予定
2018. 7, 9, 11 2019. 1, 3	てれび・さろん	知っておきたいキーワード	全 129回	2006年6月から開始
2018. 5, 7, 9, 11 2019. 1, 3		私の研究開発ツール	全 104回	2007年7月から開始
2018. 3		名誉会員からのメッセージ 一次代を担う若者に向けてー	全 29回	2008年8月から開始
2018. 7		標準化現場ノート	全 39回	2010年4月から開始
		メディアウォッチ	全 27回	2012年1月から開始
2018. 5, 7, 9, 11 2019. 1, 3		輝け！リケジョ（理系女子）	全 43回	2013年8月から開始
2018. 5, 7, 9, 11 2019. 3		異業種での映像情報メディア	全 27回	2015年1月から開始
2018. 5, 7, 9		私の日本滞在記	全 17回	2015年11月から開始
2018. 5, 7, 9, 11 2019. 1, 3		思い出の1枚	全 14回	2017年1月から開始
2018. 5, 7, 9, 11 2019. 1, 3		研究ハイライト	全 13回	2017年3月から開始
2018. 5, 7, 9, 11 2019. 1, 3		ベンチャービジネス	全 8回	2018年1月から開始

⑧2018年5月号～2019年3月号の会誌各欄のページ数

欄名	頁数	欄名	頁数	欄名	頁数
トップは語る	9	話題；見聞記	88	ベンチャービジネス	21
ふぉーかす	5	講座	29	メディアウォッチ	0
お祝い文	0	年報シリーズ	27	報告	42
追悼文	0	名誉会員からのメッセージ	0	海外文献集録	4
受賞者・役員紹介	12	私の研究開発ツール	29	ニュース	25
目次	18	知っておきたいキーワード	24	学会からのお知らせ	32
特別寄稿	5	標準化現場ノート	9	学会だより	11
講演	9	輝け！リケジョ（理系女子）	13	総目次	8
特集本文	320	異業種での映像情報メディア	24	論文目次	8
技術解説	75	私の日本滞在記	11	英語論文目次	4
研究動向	14	思い出の1枚	6	合計	963
話題	34	研究ハイライト	47		

注)他に、「新刊図書」5冊、「技術資料」0頁、「広告」頁、「メールニュース広告」0回配信。
「カタログ同封サービス」および「バナー広告」は無し。

(2) 論文関係

論文委員会（委員長 佐藤洋一）において、「和文論文誌」第72巻第5号～第73巻第3号の計10号と、「ITE Transactions on Media Technology and Applications」を第6巻第3,4号、第7巻第1,2号の計4号を、下記のとおりJ-STAGEを介したオンラインジャーナルとして公開しました。

今期の論文委員会は年3回の委員会開催に加えて、e-mail等を活用して効率的な運営を致しました。

①和文論文運営委員会、MTA運営委員会の呼称変更

和文論文運営委員会・英語論文運営委員会の呼称の「運営」を「編集」に変更しました。

②和文論文誌の隔月刊化

和文論文誌の発行回数を、会誌の発行と合わせ月刊から隔月刊に変更しました（2019年1月号より実施）。

③和文論文投稿数増化への施策について

研究委員会に論文特集の企画提案依頼、TwitterやFacebookによる情報発信を、昨年に引き続き行いました。論文誌のPRを目的として2017年3月号より開始した研究ハイライトは、今年度で13回目の掲載をしました。フィールド論文の投稿増を図るために、フィールド論文の勸奨を行う講演を小川一人幹事が年次大会で行いました。この講演をベースとした記事を、小川幹事執筆により会誌2019年1月号に掲載しました。さらにMTAの投稿勸奨を行うために、解説記事を同じく小川幹事執筆により、会誌2019年3月号に掲載しました。

④平成30年度丹羽高柳賞論文賞候補論文の選定

和文論文編集委員会・MTA編集委員会から選出された候補論文各4編の中から、論文委員会の候補を検討し、論文6編（和文・MTA各3編）を選定しました。推薦文の最終確認を行った後に、選奨委員会に提出しました。

⑤論文編集功労賞・論文査読功労賞の選定について

和文論文誌・英語論文誌（MTA）の両論文誌の編集委員担当数・査読編数が20編以上の編集委員・査読者を表彰することとし、今年度は次の方々に表彰状を授与しました。また表彰状の授与は、年次大会懇親会席上で行いました。

【論文編集功労賞】

石井雅博，入江 豪，田中賢一，人見康宣，藤井真人，三ッ峰秀樹 編集委員

【論文査読功労賞】

井上光平 査読者

⑥英語論文誌 MTA のインパクトファクタの取得に向けた施策

昨年度に ESCI (Emerging Sources Citation Index) に収録された MTA は, Scopus のスコアが, 1.00 (2019年4月現在) まで上昇しました. この値を維持向上させ, クラリベイト・アナリティクス社のインパクトファクタを獲得するために, 引用数が多い論文の招致を進めます. またインパクトファクタ獲得の重要なポイントとなる学会の英語ホームページ新設を今後の対応課題とします.

⑦二重投稿に関する投稿規定の改定

MTA では国際会議論文と同内容の論文の採録は, これまでも認めてきませんでした, このことを投稿規定に明確に記載する変更を行いました.

⑧2018年5月号～2019年3月号の論文特集のテーマとそのページ数

月号	欄名	テーマ	編数	頁数
2018.8	論文特集	2017年冬季大会講演	(4)	(14)
2018.10	論文特集	ディスプレイ IDW' 17 を中心にー	8 [1]	48 [9]
2019. 1	論文特集	選奨 (技術振興賞/映像情報メディア未来賞) 受賞者論文	[3], [3]	[18], [14]
	論文特集	博士課程学生論文	3	28
2019. 3	論文特集	選奨 (技術振興賞/映像情報メディア未来賞) 受賞者論文	[1], [2]	[5], [11]

[] はフィールド論文, () は研究速報, [] は招待論文, 【 】 は招待フィールド論文

⑨2018年5～2019年3月号 オンラインジャーナルのページ数

欄名	オンラインジャーナルの頁数(編数)
巻頭言 (特集)	4 (4)
招待論文	23 (4)
招待フィールド論文	25 (5)
論文 (一般)	34 (5)
	(特集)
動画付き論文 (一般)	0 (0)
	(特集)
フィールド論文 (一般)	8 (1)
	(特集)
研究速報 (一般)	7 (2)
	(特集)
動画付き研究速報 (一般)	4 (1)
	(特集)
これすぽんでんす	3 (1)
合計	207 (38)

⑩英語論文誌「ITE Transactions on Media Technology and Applications」特集テーマとページ数

月号	欄名	テーマ	編数	頁数
2018. 7	Special Section	Advanced Image Sensor Technology	7	54
2018.10	Special Section	IDW ' 17	6	38

2019. 1	Special Section	Doctoral Student Papers	3	34
2019. 4	Special Section	Multimedia Retrieval	【4】	【42】

【 】内は Invited Paper

①2018年7月号・10月号, 2019年1月号・4月号 英語論文誌「ITE Transactions on on Media Technology and Applications」の ページ数

欄名	頁数(編数)
Foreword (Special Section)	4 (4)
Invited Paper (Special Section)	42 (4)
Paper (Special Section)	126 (16)
Paper (Regular Section)	73 (7)
合 計	245(31)

(3) 大会・講習会・講演会論文集（予稿集）関係

- ・ 2018年年次大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）発行
- ・ 2018年冬季大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）発行

(4) 研究会資料（技術報告）関係

巻 号	発行年月日	発行部数	備 考
Vol. 42	2018年		特になし
No. 14	5月17日	160部	
No. 15	" 5月31日	120部	"
No. 16	" 5月31日	130部	"
No. 17	" 6月 7日	110部	"
No. 18	" 6月 8日	220部	"
No. 19	" 6月20日	170部	"
No. 20	" 6月29日	110部	"
No. 21	" 7月 5日	230部	"
No. 22	" 7月10日	130部	"
No. 23	" 7月19日	180部	"
No. 24	" 7月23日	170部	"
No. 25	" 7月31日	140部	"
No. 26	" 8月 2日	120部	"
No. 27	" 8月15日	150部	"
No. 28	" 8月31日	160部	"
No. 29	" 8月31日	120部	"
No. 30	" 9月18日	260部	"
No. 31	" 9月20日	130部	"
No. 32	" 9月22日	140部	"
No. 33	" 10月11日	110部	"
No. 34	" 10月12日	150部	"
No. 35	" 10月18日	150部	"
No. 36	" 10月18日	160部	"
No. 37	" 11月 1日	160部	"
No. 38	" 11月 6日	180部	"

No. 39	〃 11月19日	180部	〃
No. 40	〃 11月21日	240部	〃
No. 41	〃 11月22日	160部	〃
No. 42	〃 11月29日	120部	〃
No. 43	〃 12月 7日	140部	〃
No. 44	〃 12月10日	150部	〃
No. 45	〃 12月18日	130部	〃
Vol. 43	2019年		〃
No. 1	1月17日	140部	
No. 2	〃 1月17日	180部	〃
No. 3	〃 1月23日	140部	〃
No. 4	〃 2月 2日	170部	〃
No. 5	〃 2月12日	210部	〃
No. 6	〃 2月14日	170部	〃
No. 7	〃 2月28日	150部	〃
No. 8	〃 3月 1日	160部	〃
No. 9	〃 3月 5日	240部	〃
No. 10	〃 3月 8日	160部	〃
No. 11	〃 3月15日	430部	〃

3. 調査・研究活動（定款 第4条（3））

（1）技術委員会

技術委員会（委員長 谷本正幸）は、今期3回開催し、本会の研究委員会・時限研究会の円滑な運営を図るため、現状と将来方針について審議いたしました。

今期は、昨年に引き続き、「優秀研究発表賞」（受賞者13名）の受賞式を12月の冬季大会技術交流会の席上で行い、受賞者の顔写真等と概要を会誌2019年3月号に掲載いたしました。

昨期に引き続き、新領域開拓や、多数の有料参加による大規模なシンポジウム開催を奨励するための投資的経費を設定し、申請に基づく運用を行いました。今期中に実施した施策はありませんでした。

「技報オンラインシステム」による予稿PDFダウンロードサービスを今年度から開始いたしました。研究会当日の技報（冊子）購入者は、掲載されている予稿のPDFをダウンロードできるようになりました。このサービス開始とあわせ、技報（冊子）の当日販売価格を500円値上げいたしました。

研究会参加費有償化の検討を開始いたしました。

（2）研究委員会

次表に記載の9の研究委員会において、それぞれ活発な研究会活動を推進いたしました。

なお、本年度は「技術報告」を43分冊およびCD-ROM1部を出版いたしました。

委員会名	委員長名	開催数	海外	備考
情報センシング研究委員会	浜本隆之	8(2)		見学会1回
情報ディスプレイ研究委員会	藤崎好英	8(2)		
マルチメディアストレージ研究委員会	石井紀彦	5(4)		
放送技術研究委員会	大槻知明	9(8)		
ヒューマンインフォメーション研究委員会	佐藤雅之	5(2)		
メディア工学研究委員会	田川憲男	8(5)	1	
映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会	向井信彦	6(3)	1	
アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会	樺澤哲	2(0)		
立体映像技術研究委員会	堀越力	6(1)		

（ ）付数字は研究会開催のうち地方開催数

(3) 時限研究会

委員会名	委員長名	開催数
スポーツ情報処理時限研究委員会	渡辺 裕	3

4. 大会の開催（定款 第4条（4））

(1) 2018年年次大会

年次大会実行委員会（委員長 三谷公二）において、次のとおり企画開催いたしました。

会 期 2018年8月29日（水）～31日（金）

会 場 金沢大学・角間キャンパス

参加者数 322名

一般講演（応募講演） 31セッション（138件）

企画講演 シンポジウム：4セッション（17件）／公開講演会：1セッション（6件）／

K I B M E 招待講演：1セッション（1件）／

日韓ジョイントセッション：1セッション（6件）／

フェロー記念講演：3件／招待講演：1件

デモ展示 併設展示会：9社

懇親会 参加者数：116名

2018年年次大会セッション・講演件数・座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	立体映像技術	5	中平 篤 (NTT)	
2	コンピュータグラフィックス+フェロー記念講演	5	根岸博康 (三菱電機)	
3	センシング1	5	大竹 浩 (NHK)	
4	映像表現&CG1	3	向井信彦 (東京都市大)	
5	ヒューマンインフォメーション1	4	近藤 悟 (NHK)	
6	メディア処理	5	金子 豊 (NHK)	
7	センシング2	5	大竹 浩 (NHK)	
8	放送現業1	4	小島敏裕 (フジテレビ)	
9	ヒューマンインフォメーション2/アントプレナー・エンジニアリング	6	渡辺昌洋 (NTT) 善本哲夫 (立命館大)	
10	ヒューマンインタフェース	5	宮崎太郎 (NHK)	
11	センシング3	5	大竹 浩 (NHK)	
12	放送方式1	6	和泉田智志 (日本テレビ)	
13	スポーツ情報処理	6	三ッ峰秀樹 (NHK)	
14	マルチメディア AI 1	3	藤井真人 (NHK-ES)	

15	放送方式 2	4	松本卓三 (古河電工)	
16	放送現業 2	4	鈴木高幸 (テレビ朝日)	
17	マルチメディア AI 2	4	清水智行 (KDDI 総合研)	
18	放送方式 3	5	甲斐 創 (日本テレビ)	
19	無線・光伝送 1	4	福本正義 (NEC)	
20	画像符号化	4	小松 隆 (神奈川大)	
21	ストレージ	3	竹下伸夫 (三菱電機)	
22	無線・光伝送 2	4	伴 泰次 (住友電工)	
23	映像表現&CG 2	4	石井陽子 (NTT)	
24	画像処理 1	4	河合吉彦 (NHK)	
25	ディスプレイ	4	馬場雅裕 (東芝)	
26	放送方式 4 + フェロー記念講演	5	森住俊美 (NTT)	
27	映像表現&CG 3	4	石井陽子 (NTT)	
28	画像処理 2	5	根岸博康 (三菱電機)	
29	放送方式 5	5	伊丹 誠 (東京理科大)	
30	[特集テーマ] AI 技術の産業応用 + フェロー記念講演	5	望月貴裕 (NHK)	
31	放送方式 6	5	岡野正寛 (NHK)	
	[企画 1] スポーツ観戦を変える超臨場感技術	5	高村誠之 (NTT)	
	[企画 2] ブロックチェーンの現状と今後～コンテンツ流通など様々な分野への適用可能性～	3	柳原広昌 (KDDI 総合研)	
	[企画 3] 国際会議・英語論文・フィールド論文の採録への道	3	望月貴裕 (NHK)	
	[企画 4] 日韓ジョイントセッション	6	Nam Ik Cho (Seoul National Univ.) Takahiro Mochizuki (NHK)	
	[企画 5] KIBME 招待講演	1	柳原広昌 (KDDI 総合研)	
	[企画 6] 「伝統工芸・芸能」だけじゃない!? 金沢の映像・もの作り業界	5	秋田純一 (金沢大)	

[公開講演会] 次世代放送の取り組み～新 4K8K 衛星放送開始前夜～	6	池田哲臣 (NHK)	
-------------------------------------	---	------------	--

(2) 2018年冬季大会

冬季大会実行委員会 (委員長 熊澤逸夫) において, 次のとおり企画開催いたしました.

会 期 2018年12月20日 (木)・21日 (金)

会 場 東京工業大学 キャンパスイノベーションセンター

一般講演 19セッション (94件)

企画講演 シンポジウム: 5セッション (28件) / フェロー記念講演: 2件 /

デモ展示 1件 (10社)

参加者数 267名

懇親会 参加者数 99名

2018年冬季大会セッション, 講演件数, 座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	映像表現&CG ～ 映像表現および実空間環境理解 ～	5	名手久貴 (東京工芸大)	
2	次世代符号化・伝送方式	3	中村円香 (NHK)	
3	全天球ビジョン	5	田良島周平 (NTTコミュニケーションズ)	
4	映像表現&CG ～ 形状および質感 ～	6	盛岡寛史 (NHK)	
5	放送現業	5	福本正義 (NEC)	
6	パターン認識・深層学習+フェロー記念講演	5	渡辺 裕 (早大) 田川憲男 (首都大)	
7	放送方式・放送通信連携+フェロー記念講演	5	森住俊美 (NTT)	
8	スポーツ情報処理	6	スポーツ情報処理	
9	符号化	5	谷沢昭行 (東芝)	
10	ヒューマンインフォメーション1	4	近藤 悟 (NHK)	
11	人・顔	4	塚谷俊介 (NTT)	
12	情報ディスプレイ&ストレージ	4	薄井武順 (NHK)	
13	ヒューマンインフォメーション2	6	磯貝 愛 (NTT)	
14	深層学習応用	6	金子敏充 (東芝)	
15	センシング	4	為村成亨 (NHK)	
16	コンピュータビジョン・画像処理	5	井田 孝 (東芝)	
17	立体映像技術1	6	伊達宗和 (NTT)	

18	アントレプレナー・エンジニアリング	6	善本哲夫（立命館大）	
19	立体映像技術 2	6	掛谷英紀（筑波大）	
	[企画 1] 4K8K 時代の映像アーカイブ	5	石井紀彦（NHK） 武者敦史（富士フイルム）	
	[企画 2] 日米欧における起業工学事情	3	石綿 宏（ASML ジャパン）	
	[企画 3] AI 社会実装の拡がり と 深化	8	田川憲男（首都大） 田良島周平（NTTコミュニケーションズ）	
	[企画 4] HDR への取り組みとその制作手法	6	甲斐 創（日本テレビ）	
	[企画 5] 2017 年度各賞受賞企業によるデモ展示	10	居相直彦（NHK）	
	[企画 6] 自動運転時代の車載エレクトロニクス	6	為村成亨（NHK） 奥村治彦（東芝）	

5. 国際会議・講演会の開催（定款 第4条（4））

- ①<企画セッション>日韓ジョイントセッション（年次大会併催）
K I BME（The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers）&ITE
会期 2018年8月31日
場所 金沢大学 角間キャンパス
- ②<企画セッション>K I BME（The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers）
招待講演（年次大会併催）
会期 2018年8月31日
場所 金沢大学 角間キャンパス
- ③第25回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW2018）
会期 2018年12月12日～14日
場所 名古屋国際会議場
- ④日本工業技術振興協会共催
講演会「イメージセンサの最新技術と今後の発展」
会期 2019年1月29日
場所 東京理科大学 森戸記念館

6. 支部活動報告

(1) 北海道支部

- ①支部大会（2018年5月11日，於．さっぽろテレビ塔 2F はまなす会議室）
- ②役職会
第1回（2018年5月11日，於．さっぽろテレビ塔 2F はまなす会議室）
第2回（2018年10月24日，於．NHK 札幌放送局 第2会議室）
第3回（メール審議にて実施）
第4回（メール審議にて実施）
- ③放送技術研究会（2018年7月26日～27日，於．北海道大学大学院情報科学研究科棟）
講演件数：13件
- ④平成30年度 電気・情報関係学会北海道支部連合大会
（2018年10月27日，於．北海道大学大学院情報科学研究科棟）
講演件数：一般講演 150件
参加者数：251名
特別講演
講師：山本 強（北海道大学大学院情報科学研究科 特任教授）
演題：「移り気な人の産学連携史 ～ 北海道の IT 分野の産学連携を振り返る」
- ⑤技術セミナー2019（2019年3月6日，於．TKP 札幌カンファレンスセンター カンファレンスルーム 6B）
テーマ：「世界と日本を変えていく技術トレンドとは」
参加者：40名

- 講演1「5G実現に向けた最新取組み状況とメディア応用事例」
奥村幸彦（(株)NTTドコモ 5Gイノベーション推進室 担当部長）
- 講演2「バイオメトリクスがもたらすメディア業界のシンギュラリティ」
志村典孝（日本電気(株) 放送・メディア事業部 データアナリスト）
- 講演3「小惑星探査機「はやぶさ2」と目的天体「小惑星リュウグウ」の姿」
清水幸夫（宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙教育推進室 特任担当役）

(2) 東北支部

- ①2018年度通常大会（2018年5月18日 於. ハーネル仙台）
- ②役職会
 - 第1回幹事会（2018年5月18日 於. ハーネル仙台）
 - 第2回幹事会（2018年6月18日 メール審議）
 - 第3回幹事会（2019年3月13日 メール審議）
- ③施設見学会
（2018年5月18日 於, NHK仙台放送局 新放送会館） 参加者 12名
- ④後援団体として参加（2回）
 - 1)「ICTフェア2018 in 東北「ICTで活気ある東北のまちづくり」
（2018年6月19日,20日 於. せんだいメディアテーク）
 - 2)「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2018」
（2018年7月15日 於: 東北大学川内北キャンパス講義棟）
- ⑤電気関係学会東北支部連合大会（2018年9月6日,7日 於. 岩手大学上田キャンパス学生センター）
一般講演: 発表件数 266件, 参加者: 約 560名
特別講演会
 - 講演1「組合せ最適化問題のための量子アニーリングの現状と展望～量子技術を用いた新計算手法の挑戦～」
田中 宗（早稲田大学グリーン・コンピューティング・システム研究機構 主任研究員）
 - 講演2「究極のエネルギー圧縮・利用テクニック; パルスパワー～家庭でできる地球スケール電力発生・ガン治療・食品加工など～」
志村典孝（日本電気(株) 放送・メディア事業部 データアナリスト）
 - 講演3「小惑星探査機「はやぶさ2」と目的天体「小惑星リュウグウ」の姿」
秋山秀典（(株)融合技術開発センター 代表取締役社長 熊本大学名誉教授）
- ⑥放送技術研究会（東北支部は特別講演を担当）
（2018年9月7日 於. マリオス盛岡地域交流センター）
特別講演2「NHK仙台放送局新放送会館の概要～災害に強く地域に寄り添う放送局を目指して～」
- ⑦2019年東北地区若手研究者研究発表会（共催）
（2019年3月2日 於. 仙台高等専門学校 名取キャンパス）
テーマ:「音・光・電波・エネルギー・システム・材料とその応用」
講演発表: 102件
（発表のうちの2件を, 映像情報メディア学会東北支部の優秀賞として表彰）

(3) 北陸支部

- ①2018年度北陸支部大会（2018年5月9日, 於. ANAクラウンプラザホテル金沢）
- ②中部放送技術フォーラム（共催）（2018年5月16日～17日, 於, NHK名古屋放送局）
- ③2018年度電気関係学会北陸支部連合大会（2018年9月8日～9日, 於, 北陸先端科学技術大学院大学）
- ④2018年度映像情報メディア学会北陸支部企画講演会（2019年2月21日, 於, 富山テレビ 大会議室）
演題1: スマートプロダクション～AI技術による番組制作支援・ユニバーサルサービス～
講師: 金子浩之（NHK放送技術研究所）
演題2: 5Gの実現に向けた最新の取り組み～協創による新たな価値の創出と社会的課題解決への応用～
講師2: 奥村幸彦（NTT西日本ドコモ）
参加者 43名
- ⑤北陸地区電気・電子・情報関係学科の成績優秀学生の表彰（2019年3月1日）
11校 11名（賞状と記念品の発送）
- ⑥2018年度北陸地区学生による研究発表会（2019年3月2日, 於. 富山高等専門学校本郷キャンパス）
電気関係学会北陸支部学生会主催

(4) 東海支部

- ①支部大会（2018年4月17日, 於, NHK名古屋）
- ②中部放送技術フォーラム（共催）（2018年5月16・17日, 於. NHK名古屋）,
基調講演: 1件, 特別講演: 2件, 一般講演: 24件, 参加者数: 461名
- ③電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（2018年9月3・4日, 於. 名城大学）
講演参加数: 437名, 一般参加数: 282名
- ④支部第1回企画「自動走行実証実験車両見学・体験会」（2018年10月12日）

- 参加者数：11名
- ⑤支部第2回企画「依佐美送信所記念館見学会」（2018年11月22日）
参加者数：13名
- ⑥支部第3回企画「地上放送高度化実験設備見学会」（2019年2月28日）
参加者数：11名
- ⑦平成30年度専門講習会（協賛）（2019年3月6日，於．キャッスルプラザ）
参加者数：44名
- ⑧平成30年度助成実績（2018年8月4日，於．名古屋工業大学）
参加者数：122名
- (5) 関西支部
- ①2018年度関西支部合同報告会・講演会（2018年4月20日，於．中央電気倶楽部 5階大ホール）
【講演会】
講演題目：「表示装置の進化からみた映像メディア技術の展望」
講演者：吉川 勉（三菱電機(株) 先端技術総合研究所 システム部門長）
参加者数：85名
- ②電気関係学会関西連合大会（2018年12月1日～2日，於．大阪工業大学 大宮キャンパス）
一般講演：14部門 219件/招待講演 28件
本支部担当講演：G12 画像処理技術 一般講演7件，招待講演1件
G13 映像メディア関連技術 一般講演4件，招待講演1件
参加人数：412名
聴講者数：事前登録359名（一般講演191名，大会参加34名，特別講演1名，ポスター24名，座長32名，招待講演28名，実行委員・採点委員17名，大会・懇親会招待者33名）欠席34名
当日参加80名（大会参加56名，実行委員12名，展示・取材11名）
- 【ポスターシンポジウム】
テーマ：「関西からはばたく最新技術」24件（参加人数90名）
報告件数：26件 参加者数：約116名
- 【特別講演】
講演題目：「2020に向けた次世代映像伝送サービスの研究開発」
講演者：川添雄彦（日本電信電話(株)取締役 2018年度当会会長）
参加人数：65名
- 【見学会】「大阪工業大学モノラボ ANNEX」（参加人数：集計なし）
【懇親会】参加人数：90名，於．大阪工業大学食堂
- ③専門講習会1（2018年6月29日，於．中央電気倶楽部）
テーマ：「最新の映像技術，～次世代ディスプレイシステムと映像コンテンツ～」
講演件数：6件 参加者数：16名（会員12名 非会員4名 学生会員0名 学生非会員1名）
- ④専門講習会2（2018年10月12日，於．中央電気倶楽部）
テーマ：「共創する人間とAI ～放送業界発，あらたなAIの模索～」
講演件数：5件 参加者数：20名（会員12名 非会員8名 学生会員0名 学生非会員0名）
- ⑤専門講習会3（2019年2月15日，於．中央電気倶楽部）
テーマ：「コンピュータビジョンの最新動向」
講演件数：5件 参加者数：28名（会員14名 非会員13名 学生会員1名 学生非会員0名）
- ⑥見学会・現地講演会（2018年10月26日）
見学場所：三菱電機(株) 京都製作所
参加者数：20名
- ⑦准員および学生員のための講演会（2018年10月5日～12月19日）
開催回数：18回
参加者数：1999名
- ⑧役職会（6回）
第1回役職会（2018年4月20日）
第2回役職会（2018年5月15日）
第3回役職会（2018年7月10日）
第4回役職会（2018年10月11日）
第5回役職会（2018年12月7日）

第6回役職会（2019年3月8日）

(6) 中国支部

- ①2018年度中国支部 支部大会（2018年4月10日，於．NHK広島放送局）
- ②2018年度(第69回)電気・情報関連学会中国支部連合大会第1回大会委員会
（2018年5月22日，於．広島YMCA）
- ③2018年度(第69回)電気・情報関連学会中国支部連合大会第2回大会委員会
（2018年6月13日，於．広島YMCA）
- ④支部長会議（2018年8月30日，於．金沢大学 角間）
- ⑤2018年度(第69回)電気・情報関連学会中国支部連合大会
（2018年10月20日，於．広島市立大学）
参加者数：422名，部門数：27，セッション：49，講演数：249件
- ⑥SHV勉強会および8Kスーパーハイビジョンシアターでの視聴会を開催
（2018年11月22日，於．NHK広島放送局）
参加者数：15名
- ⑦2018年度(第69回)電気・情報関連学会中国支部連合大会第3回大会委員会
（2018年12月10日，於．広島YMCA）
- ⑧2018年度中国支部役員・運営委員会（2018年12月12日，於．NHK広島放送局）
- ⑨「電気記念日」打合せ（2017年12月14日，於．中国電力）
- ⑩2019年度 中国支部 支部長選挙（2019年2月23日～3月22日 Web投票）
- ⑪「電気記念日」式典不参加（2019年3月25日，於．中国電力）

(7) 四国支部

- ①通常大会・役職会（2018年4月17日，於．東京第一ホテル松山）
- ②電気関係学会四国支部連合大会（2017年9月22日，於．愛媛大学 城北キャンパス）
実行委員会3回（2018年5月19日，8月6日～8月16日・メール審議，12月16日）
講演件数：245件，参加者数：405名
- ④マルチストレージ研究会・共催（2018年12月6日～12月7日，於．愛媛大学 城北キャンパス）
一般講演：10件
- ⑤四国コンテンツ映像フェスタ2018・協賛（2019年1月31日，於．徳島 四国大学交流プラザ）
四国支部は審査員とプレゼンターを担当，最優秀作品3件に副賞を贈呈

(8) 九州支部

- ①第1回支部役職会，支部通常大会（2018年5月18日（火）於．NHK福岡放送局）
第2回役職会（2018年10月24日メール審議）
第3回役職会（2019年2月27日メール審議）
 - ②電気・情報関係学会九州支部連合大会（2019年9月27日～28日，於．大分大学旦野原キャンパス）
講演件数：426件（前年度481件）
 - ③放送技術研究会（本部と共催）
（2019年1月24日～25日，於．九州産業大学2号館）
学生講演：16件 一般講演：5件 特別講演：1件
- 【特別講演】
講演題目：「聴能形成～九州大学における音響技術者のための音響教育プログラム～」
講演者：河原一彦（九州大学）
- 【チュートリアル公演】
講演題目：「放送局の番組制作～大規模中継番組が放送されるまで～」
講演者：浅川 愛（NHK福岡放送局）
講演題目：「放送における無線伝送技術」
講演者：高田 政幸（NHK放送技術研究所）

7. 支部別会員数（2019年3月31日現在）

支部名	正会員	学生会員	合計	維持会員
北海道支部	68	0	68	6（33口）
東北支部	78	1	79	16（34口）
北陸支部	54	0	54	4（8口）
東海支部	155	6	161	14（50口）
関西支部	393	7	400	10（89口）
中国支部	83	0	83	14（26口）
四国支部	45	2	47	9（12口）
九州支部	98	1	99	18（37口）
支部合計	974	17	991	91（286口）

注：正会員には名誉会員を含める

注：学生会員にはアカデミックパートナー学生を含まない

8. 図書の企画・刊行（定款 第4条（2）項）

編集委員会（編集長 八木伸行）において、会誌連載講座、会誌連載シリーズなどの単行本化を検討しました。今年度も、体系的（冊子）にはせず、このままの形態で学会HPにて公開することにしました。

9. ITEテストチャートの作成・頒布（定款 第4条（2））

ITEテストチャート委員会（委員長 井口和久）を中心に以下の事業を展開しました。

- (1) 超高精細・広色域標準動画像小委員会（主査 松田一朗）、ARIBと共同で準備してまいりました。超高精細・広色域HDR版標準動画像（Cシリーズ）を2019年3月15日より頒布を開始しました。
- (2) 3次元マルチチャンネル音響標準音源小委員会（主査 小野一穂）、ARIBと共同で3次元マルチチャンネル音響標準音源Bシリーズの制作を検討してまいりました。提供音源については、よりエンターテインメント性の高い音源とするかダウンミックス時の標準音源とするかについて検討を進めましたが、結論に至りませんでした。2019年度も引き続き継続検討いたします。
- (3) ハイビジョンシリーズおよび超高精細・広色域標準静止画像、超高精細・広色域標準動画像Aシリーズ/Bシリーズについては引き合いが続いています。超高精細・広色域HDR版標準動画像（Cシリーズ）は頒布開始後、国内のみならず海外メーカーからも引き合いがありました。

10. 丹羽高柳賞，技術振興賞，鈴木記念奨励賞，映像情報メディア未来賞の選考と贈呈（定款 第4条（5））

[各賞受賞者氏名／敬称略]

<丹羽高柳賞>

(1) 功績賞

①受賞者：濱田泰人（NHK学園）

功績：地上デジタルテレビジョン放送の実用化と普及推進への貢献

(2) 業績賞

①受賞者：田中祥次（放送衛星システム）

業績：新4K8K衛星放送の放送方式標準化への寄与

(3) 論文賞

①受賞者：野寺伸武・松本隆夫・小林和樹（堺ディスプレイプロダクト）

題目：G10大型基板向けの革新的なLTPS技術で製造した19.5型4K LCD

②受賞者：Toshiki Arai・Hiroshi Ohtake（NHK）

題目：Flicker-Free Method for Video Captured at 120-Hz Frame Frequency by Interlaced Scanning and Electrical Shutter

③受賞者：大前秀樹・澤田 享・松川和生・富田佳宏（パナソニック）

題目：渦巻き配線技術を用いたストレッチャブルLEDディスプレイ

<鈴木記念奨励賞>

①受賞者：渡邊之人（NTT）

- 題 目：低解像度画像からの特定物体認識に関する一検討（年次 13B-2）
- ②受賞者：岡本大輝（NHK）
題 目：画像からの距離情報推定手法の一提案～複素ウェーブレット変換を用いた位相差検出～（年次 14C-4）
- ③受賞者：遠藤 伶（NHK）
題 目：色合いの一貫性を考慮した白黒映像カラー化システム（年次 22B-3）
- ④受賞者：信川輝吉（NHK）
題 目：位相格子を用いた空間分割位相シフト法による位相多値記録プログラムメモリー用データ読み出し手法の検討（年次 31C-1）
空間分割位相シフト法を用いた位相多値記録プログラムメモリーのデータ読み出し精度の向上（冬季 21D-4）
- ⑤受賞者：岩崎有希子（NHK）
題 目：有機 EL デバイスの高色純度化に適した発光層ホスト材料の設計（冬季 21D-2）

<技術振興賞>

（1）進歩開発賞（現場運用部門）

- ①受賞者：画像認識 AI 応用検討チーム（日本テレビ，東芝，東芝デジタルソリューションズ）
題 目：画像認識 AI を用いた番組応用と展開
- ②受賞者：ヘリコプター空撮支援マップシステム開発 PJ
（日本テレビ，コスミックエンジニアリング）
題 目：ヘリコプター空撮支援マップシステム
- ③受賞者：次世代 F・SAT 検討プロジェクト 秋信真太郎・富吉政貴・吉村理希（フジテレビ）
題 目：衛星回線の高効率化・双方向通信・運用自動化を実現した新 SNG システム（F・SAT）

（2）進歩開発賞（研究開発部門）

- ①受賞者：ソードトレーサー開発グループ 代表者：高橋 正樹（NHK）
題 目：フェンシング剣先軌跡可視化技術「ソードトレーサー」の開発
- ②受賞者：野中敬介・渡邊良亮（KDD I 総合研），塚本航平（KDD I）
題 目：5G 網を利用した自由視点映像リアルタイム配信技術
- ③受賞者：Crystal LED ディスプレイ開発プロジェクトチーム（ソニー，ソニーセミコンダクタソリューションズ）
題 目：マイクロ LED を画素に用いた高画質でスケーラブルな Crystal LED ディスプレイシステムの実用化

（3）コンテンツ技術賞

- ①受賞者：宮崎太郎・牧野仁宣・武井友香（NHK）
コンテンツ名：番組制作を支援するソーシャルメディア分析システム，NHK 総合テレビ「はじっこ革命」，「ドキュメント 72 時間 年末特番」，ほか
- ②受賞者：アオイエリカプロジェクト 代表：川上皓平（日本テレビ）
コンテンツ名：アンドロイドアナウンサー「アオイエリカ」の開発と運用
- ③受賞者：藤井祐介・木村洋輔（テレビ朝日）
コンテンツ名：音声認識を使用した AI による自動リアルタイム字幕“AI ポン”の開発
- ④受賞者：上田容一郎（フジテレビ）
コンテンツ名：ライブ音楽番組におけるフレアプラスレンズを用いた映像効果～2018FNS 歌謡祭における活用～

<映像情報メディア未来賞>

（1）フロンティア賞

- ①受賞者：為村成亨（NHK）
題 目：低電圧増倍型結晶セレン光電変換膜の開発
- ②受賞者：齋藤椋介・柴田陽生・藤掛英夫（東北大学）
題 目：ストレッチャブルディスプレイ用液晶ゲルに関する先駆的研究

（2）次世代テレビ技術賞

- ①受賞者：地上放送高度化方式研究開発グループ 代表：土田 健一（NHK）
題 目：地上デジタルテレビジョン放送高度化方式の開発

②受賞者：木谷佳隆・河村 圭（KDDI総合研）

題 目：8K マルチアングル対応リアルタイムエンコーダの開発

1.1. 名誉会員の推薦（定款 第4条（8））

本年度、第8回理事会において、久保田啓一氏、Carlos Paz de Araujo 氏、伊東 晋氏の3名を第65回定時社員総会において名誉会員に推挙することになりました。

1.2. フェロー認定証の贈呈（定款 第4条（5））

フェロー選定委員会（委員長 熊澤逸夫）において、慎重に検討しました結果、次の9名の方々にフェローの称号を授与することとしました。

<フェロー認定者／五十音順>

伊丹 誠（東京理科大学）、大関和夫（アルゴリズム研究所）、大竹 浩（NHK）、
酒澤茂之（大阪工業大学）、鹿喰善明（明治大学）、陶山史朗（徳島大学）、
高橋時市郎（東京電機大学）、高橋秀也（大阪市立大）、長谷山美紀（北海道大学）

1.3. 社会貢献活動（定款 第4条（7））

1) 公開講演会（年次大会併催）

日時：8月31日（金）13時～17時45分

会場：金沢大学 大講義室A

内容：次世代放送の取り組み～新4K8K衛星放送開始前夜～

- (1) 「4K8K放送方式の標準化」 西田幸博氏（NHK）
- (2) 「送出設備の整備概要」 原 哲氏（NHK）
- (3) 「新4K8K衛星放送の宅内配信について」 坂本 徹氏（A-PAB（放送サービス高度化推進協議会））
- (4) 「新4K8K衛星放送受信チューナー」 小野 康氏（ソニー）
- (5) 「ライブ制作におけるHDR／SDRサイマル制作の取り組み」 宇佐美貴士（朝日放送）
- (6) 「地上4K8K放送の研究開発動向」 岡野正寛氏（NHK）

2) ITE併設展示会2018（年次大会併催）

日時：8月29日（水）～31日（金）

会場：金沢大学 大講義室B

- (1) アストロデザイン株式会社
- (2) 株式会社 朋栄エレテックス
- (3) 株式会社オンテック
- (4) 株式会社エクスプローラ
- (5) 株式会社トラフィック・シム
- (6) 株式会社K-WILL
- (7) 株式会社ユニテックス
- (8) ビデオトロン株式会社
- (9) メラノックステクノロジーズジャパン株式会社

3) 2017年度各賞受賞企業によるデモ展示（冬季大会時開催）

- (1) ロードレース中継における画像認識技術を用いた制作支援
ロードレース中継における制作支援検討チーム（日本テレビ、東芝、東芝デジタルソリューションズ）
- (2) ネットバンドカメラの開発とその運用
保刈寛之（日本テレビ）、高橋一徳（日テレ・テクニカル・リソース）
- (3) SNGにおける新運用手法の開発 ～リモート衛星管制方式とサイトダイバシティ運用～
次世代F・SAT検討プロジェクト 秋信真太郎・吉村理希・金森健彦（フジテレビ）
- (4) 3次元音響残響付加装置
森 千晶（NHK）、西口敏行（NHK-ES）、小野一穂（NHK）
- (5) 4K対応HEVC映像伝送装置IP-HE950の開発
P-HE950開発チーム 梅元泰孝（富士通）、三好秀誠（富士通研）、
山口洋介（富士通九州ネットワークテクノロジーズ）
- (6) Swimmer Tracking Systemの開発
Swimmer Tracking System開発グループ（テレビ朝日）

- (7) ライブ動画配信用制作・送出システムの開発
小南英司（朝日放送）
- (8) 放送字幕のスマートフォン・タブレットへの多言語配信
関西テレビ放送株
- (9) E0 ポリマーを用いた光フェーズドアレイの先駆的研究
光フェーズドアレイ研究グループ（NHK，N I C T）
- (10) インタラクティブ視聴を実現する音場のズーム合成技術の研究開発
堀内俊治・新井田統・滝嶋康弘（KDD I 総合研）

14. 支部長会議（定款 第4条（8））

会期 2018年8月31日
会場 金沢大学 角間キャンパス

15. 通常総会の開催（定款 第4条（8））

- (1) 第64回通常総会
会期 2018年5月30日
会場 機械振興会館
- (2) 第65回定時社員総会の準備
2019年5月31日に予定し、その準備を行いました。

16. 2018年度理事会の開催（定款 第4条（8））

本年度は、理事会10回（うち代表代議員出席3回）、臨時理事会1回を開催し、各事業を積極的に推進するための検討を行いました。

以上

2018年度決算報告書

自 2018年 4月 1日

至 2019年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

貸借対照表

2019年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	27,515,167	27,652,115	136,948
未 収 会 費	2,879,000	4,135,200	1,256,200
未 収 金	4,136,717	7,526,398	3,389,681
棚 卸 資 産	11,728,614	11,747,647	19,033
貯 蔵 品	119,000	119,000	0
有 価 証 券	5,000,000	0	5,000,000
立 替 金	41,350	27,933	13,417
仮 払 金	408,240	13,080	395,160
貸 倒 引 当 金	59,100	161,800	102,700
流動資産合計	51,768,988	51,059,573	709,415
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定 期 預 金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
退 職 給 付 引 当 資 産	13,447,727	13,447,727	0
選 奨 基 金	16,544,073	16,935,117	391,044
啓 発 普 及 基 金	14,000,000	14,000,000	0
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	26,597,768	0
設 備 拡 充 等 特 定 資 産	17,808,687	17,808,687	0
記 念 事 業 特 定 資 産	36,212,411	36,212,411	0
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	35,871,500	37,871,500	2,000,000
事 務 局 設 備 特 定 資 産	860,310	860,310	0
鈴 木 記 念 賞 特 定	1,821,079	1,852,961	31,882
発 展 事 業 基 金	6,124,500	5,918,994	205,506
特定資産合計	169,288,055	171,505,475	2,217,420
(3) その他固定資産			
ソ フ ト ウ エ ア	1,062,278	1,453,632	391,354
什 器 備 品	1	1	0
保 証 金	1,714,800	1,714,800	0
その他固定資産合計	2,777,079	3,168,433	391,354
固定資産合計	175,065,134	177,673,908	2,608,774
資産合計	226,834,122	228,733,481	1,899,359
負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	1,058,396	1,822,935	764,539
前 受 会 費	802,600	342,200	460,400
預 り 金	326,181	338,614	12,433
賞 与 引 当 金	2,560,270	2,553,135	7,135
未 払 法 人 税 等	2,877,600	3,667,300	789,700
未 払 消 費 税 等	504,000	456,100	47,900
流動負債合計	8,129,047	9,180,284	1,051,237
2. 固定負債			
退 職 給 付 引 当 金	31,757,605	29,816,256	1,941,349
固定負債合計	31,757,605	29,816,256	1,941,349
負債合計	39,886,652	38,996,540	890,112
正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	186,947,470	189,736,941	2,789,471
負債及び正味財産合計	226,834,122	228,733,481	1,899,359

貸借対照表内訳表

2019年 3月31日現在

科 目	実施事業		
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	△ 66,404,311	△ 13,031,177	△ 858,142
未収金	0	0	0
未収金	1,843,182	50,000	0
棚卸資産	0	0	0
貯蔵品	119,000	0	0
有価証券	0	0	0
立替金	0	0	0
仮払金	0	0	0
他会計へ振出金	2,740,657	245,394	0
貸倒引当金	0	0	0
流動資産合計	△ 61,701,472	△ 12,735,783	△ 858,142
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	0	0	0
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	0	0	0
選奨基金	0	0	0
啓発普及基金	0	0	0
研究・特別企画基金	0	26,597,768	0
設備拡充等特定資産	0	0	0
記念事業特定資産	0	0	0
会誌活性化等特定資産	35,871,500	0	0
事務局設備特定資産	0	0	0
鈴木記念賞特定金	0	0	0
発展事業基金	0	0	0
特定資産合計	35,871,500	26,597,768	0
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	318,408	0	0
什器備品	0	0	0
保証金	0	0	0
その他固定資産合計	318,408	0	0
固定資産合計	36,189,908	26,597,768	0
資産合計	△ 25,511,564	13,861,985	△ 858,142
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	61,542	0	0
前受金	0	0	0
預り金	△ 3,518	6,819	0
賞与引当金	167,460	24,016	0
未払法人税等	0	0	0
他会計より繰入	103,944,138	51,470,539	1,137
未払消費税等	95,760	0	0
流動負債合計	104,265,382	51,501,374	1,137
2. 固定負債			
退職給付引当金	14,090,769	908,212	0
固定負債合計	14,090,769	908,212	0
負債合計	118,356,151	52,409,586	1,137
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	△ 149,925,709	△ 37,519,786	△ 858,922
正味財産合計	△ 143,867,715	△ 38,547,601	△ 859,279
負債及び正味財産合計	△ 25,511,564	13,861,985	△ 858,142

表彰、コンクール	共通	小計	技術報告関係	図書関係	ウェブサイト関係
△ 4,026,867	32,023,180	△ 52,297,317	2,889,136	523,718	76,838,771
0	0	0	0	0	0
0	0	1,893,182	793,130	0	1,211,695
0	0	0	0	0	10,960,329
0	0	119,000	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
465,599	0	3,451,650	17,198,850	0	0
0	0	0	0	0	0
△ 3,561,268	32,023,180	△ 46,833,485	20,881,116	523,718	89,010,795
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
16,544,073	0	16,544,073	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	26,597,768	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	35,871,500	0	0	0
0	0	0	0	0	0
3,735,829	△ 1,914,750	1,821,079	0	0	0
0	0	0	0	0	0
20,279,902	△ 1,914,750	80,834,420	0	0	0
0	0	318,408	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	318,408	0	0	0
20,279,902	△ 1,914,750	81,152,828	0	0	0
16,718,634	30,108,430	34,319,343	20,881,116	523,718	89,010,795
70,280	0	131,822	28,533	0	60,172
0	0	0	0	0	0
0	0	3,301	0	0	0
42,029	0	233,505	0	0	0
0	0	0	2,807,600	0	0
45,661,871	31,152,627	232,230,312	△ 628,571	0	17,430
0	0	95,760	332,640	0	0
45,774,180	31,152,627	232,694,700	2,540,202	0	77,602
		0			
1,007,162	0	16,006,143	1,279,002	0	0
1,007,162	0	16,006,143	1,279,002	0	0
46,781,342	31,152,627	248,700,843	3,819,204	0	77,602
0	0	0	0	0	0
△ 25,032,886	△ 1,044,197	△ 214,381,500	26,330,081	523,718	70,136,154
△ 30,062,708	△ 1,044,197	△ 214,381,500	17,061,912	523,718	88,933,193
16,718,634	30,108,430	34,319,343	20,881,116	523,718	89,010,795

その他会計(公)

NICT国際交流	連合大会(支部)	講習会(支部)	見学会(支部)	共通(支部)	年次大会(支部)
0	△ 3,100,481	1,030,508	△ 630,204	△ 390,238	△ 99,420
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	4,370	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	△ 3,096,111	1,030,508	△ 630,204	△ 390,238	△ 99,420
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	△ 3,096,111	1,030,508	△ 630,204	△ 390,238	△ 99,420
0	21,729	11,353	0	163,944	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	△ 4,370	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	17,359	11,353	0	163,944	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	17,359	11,353	0	163,944	0
0	0	0	0	0	0
0	△ 7,268,530	1,088,653	△ 627,126	△ 560,338	△ 99,420
0	△ 3,113,470	1,019,155	△ 630,204	△ 554,182	△ 99,420
0	△ 3,096,111	1,030,508	△ 630,204	△ 390,238	△ 99,420

		法人会計			
	共通	小計	法人会計	法人会計(支部)	小計
△ 206,954	△ 7,932,040	△ 9,258,856	17,576,491	9,001,134	18,438,631
0	0	0	2,879,000	0	2,879,000
0	0	0	0	21,513	21,513
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	5,000,000	0	5,000,000
0	0	0	41,350	0	41,350
0	0	0	399,060	0	399,060
0	46,270	46,270	61,903,101	0	61,949,371
0	0	0	△ 7,200	0	△ 7,200
△ 206,954	△ 7,885,770	△ 9,212,586	87,791,802	9,022,647	88,721,725
0	0	0	3,000,000	0	3,000,000
0	0	0	3,000,000	0	3,000,000
0	0	0	13,447,727	0	13,447,727
0	0	0	0	0	0
0	0	0	14,000,000	0	14,000,000
0	0	0	0	0	0
0	0	0	17,808,687	0	17,808,687
0	0	0	36,212,411	0	36,212,411
0	0	0	0	0	0
0	0	0	860,310	0	860,310
0	0	0	0	0	0
0	0	0	6,124,500	0	6,124,500
0	0	0	88,453,635	0	88,453,635
0	0	0	743,870	0	743,870
0	0	0	1	0	1
0	0	0	1,714,800	0	1,714,800
0	0	0	2,458,671	0	2,458,671
0	0	0	93,912,306	0	93,912,306
△ 206,954	△ 7,885,770	△ 9,212,586	181,704,108	9,022,647	182,634,031
0	0	163,944	627,540	13,303	640,843
0	0	0	802,600	0	802,600
0	0	0	322,880	0	322,880
0	25,725	25,725	1,691,515	0	1,717,240
0	0	0	70,000	0	70,000
720	13,640,308	13,641,028	△ 166,787,597	4,370	△ 153,142,199
0	0	0	0	0	0
720	13,666,033	13,830,697	△ 163,273,062	17,673	△ 149,588,636
		0			0
0	2,561,023	2,561,023	9,157,222	0	11,718,245
0	2,561,023	2,561,023	9,157,222	0	11,718,245
720	16,227,056	16,391,720	△ 154,115,840	17,673	△ 137,870,391
0	0	0	0	0	0
△ 207,674	△ 24,112,826	△ 25,607,384	335,819,948	9,004,974	320,504,422
△ 207,674	△ 24,112,826	△ 25,604,306	335,819,948	9,004,974	320,504,422
△ 206,954	△ 7,885,770	△ 9,212,586	181,704,108	9,022,647	182,634,031

(単位：円)

内部消去	合 計
一般事業	
0	27,515,167
0	2,879,000
0	4,136,717
0	11,728,614
0	119,000
0	5,000,000
0	41,350
0	408,240
△ 83,084,387	0
0	△ 59,100
△ 83,084,387	51,768,988
0	3,000,000
0	3,000,000
0	13,447,727
0	16,544,073
0	14,000,000
0	26,597,768
0	17,808,687
0	36,212,411
0	35,871,500
0	860,310
0	1,821,079
0	6,124,500
0	169,288,055
0	1,062,278
0	1
0	1,714,800
0	2,777,079
0	175,065,134
△ 83,084,387	226,834,122
0	1,058,396
0	802,600
0	326,181
0	2,560,270
0	2,877,600
△ 83,084,387	0
0	504,000
△ 83,084,387	8,129,047
0	31,757,605
0	31,757,605
△ 83,084,387	39,886,652
0	0
0	186,947,470
0	186,947,470
△ 83,084,387	226,834,122

正味財産増減計算書

2018年 4月 1日から2019年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	411	609	198
基本財産受取利	411	609	198
特定資産運用益	707,930	452,466	255,464
特定資産受取利	707,930	452,466	255,464
受取入金会金	38,000	27,000	11,000
受取入金会金	38,000	27,000	11,000
受取会費	55,528,200	56,716,650	1,188,450
正学会員会費	30,173,200	31,146,650	973,450
維持会員会費	23,575,000	23,750,000	175,000
特殊会員会費	860,000	980,000	120,000
アカデミックパートナー	920,000	840,000	80,000
事業収益	37,420,460	39,364,195	1,943,735
会誌関係収入	6,171,660	6,798,762	627,102
会誌頒布収入	931,744	986,565	54,821
年次大会	2,713,370	3,117,530	404,160
冬季大会収入	1,355,700	1,477,800	122,100
講習会収入	715,000	1,105,000	390,000
研究会収入	0	135,000	135,000
講演会収入	25,000	20,000	5,000
技術報告収入	7,516,580	7,490,970	25,610
図書関係収入	0	72,360	72,360
テストチャート収入	13,840,700	17,356,032	3,515,332
電子図書館	0	804,176	804,176
連合大会	4,150,706	0	4,150,706
受取補助金等	360,000	9,000,018	8,640,018
受取国庫補助金	0	9,000,018	9,000,018
石川県・金沢市補助金	360,000	0	360,000
受取寄付金	354,000	316,000	38,000
発展事業寄付金	354,000	316,000	38,000
雑収益	1,025,320	840,456	184,864
ハックナシ - 収入	126,455	129,250	2,795
受取利息	419	35,659	35,240
雑収益	573,343	192,282	381,061
連合大会繰入金	167,855	326,449	158,594
閲覧料	157,248	156,816	432
経常収益計	95,434,321	106,717,394	11,283,073
(2) 経常費用			
事業費	65,268,139	59,227,882	6,040,257
給料手当	16,423,178	16,579,839	156,661
派遣賃金	1,087,397	786,818	300,579
退職給付費用	1,228,464	718,774	509,690
福利厚生費	2,231,854	2,219,631	12,223
旅費交通費	1,079,799	629,430	450,369
通信運搬費	3,495,837	3,193,523	302,314
消耗什器備品費	19,033	847,357	828,324
消耗品費	1,160,031	1,716,202	556,171
修繕費	298,686	505,872	207,186
印刷製本費	13,613,811	12,298,556	1,315,255
賃借料	5,580,343	4,934,385	645,958
支払リース料	588,594	697,311	108,717
諸謝金	1,030,245	836,618	193,627
租税公課	1,014,917	1,146,057	131,140

会 議 費	2,703,767	839,204	1,864,563
支 払 負 担 金	1,146,577	1,017,575	129,002
支 払 助 成 金	60,000	70,000	10,000
広 告 宣 伝 費	436,820	424,930	11,890
委 託 費	8,008,252	5,072,306	2,935,946
函 書 費	837,394	753,857	83,537
雑 費	215,548	169,537	46,011
法 人 税 等	2,807,600	3,597,300	789,700
減 価 償 却 費	199,992	172,800	27,192
管 理 費	29,864,118	37,926,406	8,062,288
給 料 手 当	14,726,388	14,807,384	80,996
派 遣 賃 金	433,984	95,266	338,718
退 職 給 付 費 用	712,885	417,107	295,778
福 利 厚 生 費	2,081,744	2,043,185	38,559
旅 費 交 通 費	131,705	392,962	261,257
通 信 運 搬 費	111,921	150,421	38,500
消 耗 品 費	77,470	69,444	8,026
印 刷 製 本 費	16,899	0	16,899
賃 借 料	1,492,956	1,491,015	1,941
支 払 り 一 入 料	340,766	413,756	72,990
諸 謝 金	11,137	0	11,137
諸 会 費	202,913	205,248	2,335
租 税 公 課	97,694	58,412	39,282
会 議 費	1,005,512	1,007,675	2,163
支 払 助 成 金	0	20,000	20,000
広 告 宣 伝 費	98,439	44,439	54,000
委 託 費	5,307,433	4,762,014	545,419
函 書 費	3,000	0	3,000
雑 費	148,959	187,272	38,313
W e b - I T	1,858,150	2,033,313	175,163
会 員 管 理 費	594,307	459,508	134,799
発 展 事 業 資 金 活	148,494	40,402	108,092
補 助 金 支 出	0	9,000,018	9,000,018
法 人 税 等	70,000	70,000	0
減 価 償 却 費	191,362	157,565	33,797
経常費用計	95,132,257	97,154,288	2,022,031
評価損益等調整前当期経常増減額	302,064	9,563,106	9,261,042
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	302,064	9,563,106	9,261,042
2 . 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
償 却 債 権 取 立 益	0	3,000	3,000
貸 倒 引 当 金 戻 入	161,800	64,200	97,600
経常外収益計	161,800	67,200	94,600
(2) 経常外費用			
貸 倒 引 当 金 繰 入	59,100	161,800	102,700
貸 倒 損 失	3,187,100	2,132,520	1,054,580
賞 与 引 当 繰 入	7,135	24,135	17,000
経常外費用計	3,253,335	2,318,455	934,880
当期経常外増減額	3,091,535	2,251,255	840,280
当期一般正味財産増減額	2,789,471	7,311,851	10,101,322
一般正味財産期首残高	189,736,941	182,425,090	7,311,851
一般正味財産期末残高	186,947,470	189,736,941	2,789,471
指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
正味財産期末残高	186,947,470	189,736,941	2,789,471

正味財産増減計算書内訳表

2018年4月1日から2019年3月31日まで

科 目	実施事業					その他会計(収)				
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)	表彰、ｺﾝｸﾞﾚ	共通	小計	技術報告関係	図書関係	FAX関係	会誌頒布
Ⅰ 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
基本財産運用益	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
基本財産受取利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	[191,293]	[89,790]	[0]	[33,103]	[0]	[314,186]	[0]	[0]	[0]	[0]
特定資産受取利益	191,293	89,790	0	33,103	0	314,186	0	0	0	0
受取入金	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
受取入金会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取入金会費	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
正学会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
維持会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特殊会員会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7ｼﾞｼﾞｶﾝ-ｲﾝ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業関係収入	[6,171,660]	[0]	[0]	[0]	[0]	[6,171,660]	[7,516,580]	[0]	[13,840,700]	[931,744]
会誌関係収入	6,171,660	0	0	0	0	6,171,660	0	0	0	0
会誌頒布収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	931,744
年次大会収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
冬季大会収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
講習会収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
講演会収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
講演会収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
技術報告収入	0	0	0	0	0	0	7,516,580	0	0	0
FAX収入	0	0	0	0	0	0	0	0	13,840,700	0
本部交付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研究会等補助金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連合大会収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取補助金等	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
石川県・金沢市補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
発展事業寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収	[154,735]	[0]	[0]	[2,160]	[0]	[156,895]	[228,859]	[0]	[0]	[0]
ﾊﾞｯｸﾞｲﾝ-ｲﾝ	0	0	0	0	0	0	78,955	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収入	147,391	0	0	2,160	0	149,551	0	0	0	0
支部繰越金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
連合大会繰入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関係料	7,344	0	0	0	0	7,344	149,904	0	0	0
経常収益計	6,517,888	89,790	0	35,263	0	6,642,741	7,745,439	0	13,840,700	931,744
(2) 経常費用										
事業費	[30,256,969]	[5,045,691]	[64,135]	[3,301,206]	[74,632]	[38,742,633]	[6,695,782]	[0]	[398,334]	[397,095]
給料手当	7,092,193	1,077,297	0	1,885,269	0	10,054,759	0	0	0	0
派遣賃金	339,805	246,909	0	0	0	585,905	0	0	0	0
退職給付費用	530,501	80,582	0	141,019	0	752,102	0	0	0	0
福利厚生費	960,758	145,836	0	255,392	0	1,362,086	0	0	0	0
旅費交通費	52,910	0	0	52,100	0	105,010	0	0	0	0
通信運搬費	2,593,240	209,698	992	25,402	0	2,829,242	393,055	0	70,906	0
消耗什器備品費	0	0	0	0	0	0	0	0	19,033	0
消耗品費	253,419	226,435	7,096	245,419	0	732,369	0	0	258,241	0
修繕費	113,400	0	0	113,400	0	113,400	0	0	0	0
印刷製本費	8,732,465	0	0	0	0	8,732,465	3,162,487	0	0	396,447
賃借料	956,021	2,170,514	0	617,305	0	3,743,840	0	0	0	0
支払リース料	254,234	38,618	0	67,582	0	360,434	0	0	0	0
諸謝金	77,959	324,081	11,137	0	0	413,177	0	0	0	0
租税公課	119,817	13,750	0	10,310	74,632	218,509	332,640	0	0	0
会議費	163,210	80,456	5,000	0	0	248,666	0	0	0	0
支払負担金	0	163,702	40,000	0	0	203,702	0	0	0	0
支払助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広告宣伝費	298,820	0	0	0	0	298,820	0	0	0	0
委託費	6,762,138	72,382	0	0	0	6,834,520	0	0	50,154	648
図書費	751,394	86,000	0	0	0	837,394	0	0	0	0
雑費	5,293	109,940	0	1,408	0	116,641	0	0	0	0
法人税等	0	0	0	0	0	0	2,807,600	0	0	0
減価償却費	199,992	0	0	0	0	199,992	0	0	0	0
管理費	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
派遣賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払リース料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
図書費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	30,256,969	5,045,691	64,135	3,301,206	74,632	38,742,633	6,695,782	0	398,334	397,095
経常増減額	△ 23,739,281	△ 4,955,901	△ 64,135	△ 3,265,943	△ 74,632	△ 32,099,892	1,049,657	0	13,442,366	534,649
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常増減の部	△ 23,739,281	△ 4,955,901	△ 64,135	△ 3,265,943	△ 74,632	△ 32,099,892	1,049,657	0	13,442,366	534,649
(1) 経常外収益										
貸倒引当金戻入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用										
貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
貸倒損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賞与引当繰入	1,950	296	0	518	0	2,764	0	0	0	0
経常外費用計	1,950	296	0	518	0	2,764	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,950	△ 296	0	△ 518	0	△ 2,764	0	0	0	0
他会計振替前当期正味財産増減額	△ 23,741,231	△ 4,956,197	△ 64,135	△ 3,266,461	△ 74,632	△ 32,102,656	1,049,657	0	13,442,366	534,649
当期正味財産増減額	△ 23,741,231	△ 4,956,197	△ 64,135	△ 3,266,461	△ 74,632	△ 32,102,656	1,049,657	0	13,442,366	534,649
一般正味財産期首残高	△ 126,184,478	△ 32,563,589	△ 794,787	△ 21,766,425	△ 969,565	△ 182,278,844	25,280,424	523,718	56,693,788	7,930,362
一般正味財産期末残高	△ 149,925,709	△ 37,519,786	△ 858,922	△ 25,032,886	△ 1,044,197	△ 214,381,500	26,330,081	523,718	70,136,154	8,465,011
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	△ 149,925,709	△ 37,519,786	△ 858,922	△ 25,032,886	△ 1,044,197	△ 214,381,500	26,330,081	523,718	70,136,154	8,465,011

(単位：円)

支(支部)	講習会(支部)	見学会(支部)	共通(支部)	年次大会(支部)	科学博物館展示	共通	小計	法人会計			内部消去 一般事業	合 計	
								法人会計	法人会計(支部)	小計			
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[411]	[0]	[411]	[0]	[411]	
0	0	0	0	0	0	0	0	411	0	411	0	411	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[393,744]	[0]	[393,744]	[0]	[707,930]	
0	0	0	0	0	0	0	0	393,744	0	393,744	0	707,930	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[38,000]	[0]	[38,000]	[0]	[38,000]	
0	0	0	0	0	0	0	0	38,000	0	38,000	0	38,000	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[55,528,200]	[0]	[55,528,200]	[0]	[55,528,200]	
0	0	0	0	0	0	0	0	55,528,200	0	55,528,200	0	55,528,200	
0	0	0	0	0	0	0	0	30,173,200	0	30,173,200	0	30,173,200	
0	0	0	0	0	0	0	0	23,575,000	0	23,575,000	0	23,575,000	
0	0	0	0	0	0	0	0	860,000	0	860,000	0	860,000	
0	0	0	0	0	0	0	0	920,000	0	920,000	0	920,000	
[0]	[715,000]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[8,959,716]	[0]	[6,488,513]	[6,488,513]	[37,420,460]	
0	715,000	0	0	0	0	0	0	8,959,716	0	6,488,513	6,488,513	37,420,460	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,171,660	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	931,744	
0	0	0	0	0	0	0	0	2,713,370	0	0	0	2,713,370	
0	0	0	0	0	0	0	0	1,355,700	0	0	0	1,355,700	
0	0	0	0	0	0	0	0	715,000	0	0	0	715,000	
0	0	0	0	0	0	0	0	25,000	0	0	0	25,000	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,516,580	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13,840,700	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,467,000	6,467,000	△ 6,467,000	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	21,513	21,513	△ 21,513	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	4,150,706	0	0	0	4,150,706	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[360,000]	[0]	[0]	[0]	[360,000]	
0	0	0	0	0	0	0	0	360,000	0	0	0	360,000	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[354,000]	[0]	[354,000]	[0]	[354,000]	
0	0	0	0	0	0	0	0	354,000	0	354,000	0	354,000	
[167,855]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[215,355]	[2,763,055]	[24]	[2,763,079]	[△ 2,408,868]	[1,025,320]
0	0	0	0	0	0	0	0	215,355	2,763,055	24	2,763,079	△ 2,408,868	1,025,320
0	0	0	0	0	0	0	0	47,500	0	0	0	126,455	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	395	24	419	419	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	353,792	0	353,792	573,343	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,408,868	0	2,408,868	△ 2,408,868	
167,855	0	0	0	0	0	0	0	167,855	0	0	0	167,855	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	157,248	
167,855	715,000	0	0	0	0	0	0	9,535,131	59,077,410	6,488,537	65,565,947	△ 8,897,381	95,434,321
.817.904]	[753.675]	[129.168]	[185.286]	[61.860]	[207.674]	[2,811.964]	[12,089.729]	[0]	[0]	[0]	[△ 21,513]	[65,268.139]	
0	0	0	0	0	0	2,180,752	2,180,752	0	0	0	0	16,423,178	
323,600	0	0	0	0	0	0	501,892	0	0	0	0	1,087,397	
0	0	0	0	0	0	3,983	3,983	0	0	0	0	1,226,456	
0	0	0	0	0	0	194,293	194,293	0	0	0	0	2,231,854	
22,214	86,264	126,090	0	61,860	758	0	974,789	0	0	0	0	1,079,799	
0	11,084	0	0	0	102,048	7,793	179,837	0	0	0	0	3,495,837	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,033	
86,549	33,307	0	0	0	0	6,494	165,430	0	0	0	△ 21,513	1,160,031	
0	0	0	185,286	0	0	0	185,286	0	0	0	0	298,696	
801,582	280,000	0	0	0	0	8,698	1,283,242	0	0	0	0	13,613,811	
0	0	0	0	0	0	293,216	821,221	0	0	0	0	5,580,343	
0	0	0	0	0	0	51,591	51,591	0	0	0	0	588,594	
0	94,880	0	0	0	0	0	617,068	0	0	0	0	1,030,245	
0	0	0	0	0	0	58,920	134,520	0	0	0	0	1,014,917	
1,786,854	198,140	3,078	0	0	0	0	2,455,101	0	0	0	0	2,703,767	
739,927	0	0	0	0	0	0	942,875	0	0	0	0	1,146,577	
10,000	50,000	0	0	0	0	0	60,000	0	0	0	0	60,000	
138,000	0	0	0	0	0	0	138,000	0	0	0	0	436,820	
909,198	0	0	0	0	104,868	0	1,122,930	0	0	0	0	8,008,252	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	837,394	
0	0	0	0	0	0	6,224	76,919	0	0	0	0	215,548	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,807,600	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	199,992	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[33,656.904]	[5,083.482]	[38,739.986]	[△ 8,875.868]	[29,864.118]	
0	0	0	0	0	0	0	0	33,656,904	5,083,482	38,739,986	△ 8,875,868	29,864,118	
0	0	0	0	0	0	0	0	14,726,388	0	14,726,388	0	14,726,388	
0	0	0	0	0	0	0	0	433,984	0	433,984	0	433,984	
0	0	0	0	0	0	0	0	712,885	0	712,885	0	712,885	
0	0	0	0	0	0	0	0	2,081,744	0	2,081,744	0	2,081,744	
0	0	0	0	0	0	0	0	58,045	73,660	131,705	0	131,705	
0	0	0	0	0	0	0	0	60,479	51,442	111,921	0	111,921	
0	0	0	0	0	0	0	0	75,761	1,709	77,470	0	77,470	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,899	16,899	0	16,899	
0	0	0	0	0	0	0	0	1,492,956	0	1,492,956	0	1,492,956	
0	0	0	0	0	0	0	0	340,766	0	340,766	0	340,766	
0	0	0	0	0	0	0	0	11,137	0	11,137	0	11,137	
0	0	0	0	0	0	0	0	202,913	0	202,913	0	202,913	
0	0	0	0	0	0	0	0	97,693	1	97,694	0	97,694	
0	0	0	0	0	0	0	0	752,510	253,002	1,005,512	0	1,005,512	
0	0	0	0	0	0	0	0	98,439	0	98,439	0	98,439	
0	0	0	0	0	0	0	0	3,045,195	2,262,238	5,307,433	0	5,307,433	
0	0	0	0	0	0	0	0	3,000	0	3,000	0	3,000	
0	0	0	0	0	0	0	0	133,296	15,663	148,959	0	148,959	
0	0	0	0	0	0	0	0	1,858,150	0	1,858,150	0	1,858,150	
0	0	0	0	0	0	0	0	594,307	0	594,307	0	594,307	
0	0	0	0	0	0	0	0	6,467,000	0	6,467,000	△ 6,467,000	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	148,494	0	148,494	0	148,494	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,408,868	2,408,868	△ 2,408,868	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	70,000	0	70,000	0	70,000	
0	0	0	0	0	0	0	0	191,362	0	191,362	0	191,362	
4,817,904	753,675	129,168	185,286	61,860	207,674	2,811,964	12,089,729	33,656,904	5,083,482	38,739,986	△ 8,897,381	95,132,257	
4,650,049	△ 38,675	△ 129,168	△ 185,286	△ 61,860	△ 207,674	△ 2,811,964	△ 2,554,598	25,420,906	1,405,055	26,825,961	0	302,064	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4,650,049	△ 38,675	△ 129,168	△ 185,286	△ 61,860	△ 207,674	△ 2,811,964	△ 2,554,598	25,420,906	1,405,055	26,825,961	0	302,064	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	5,400	0	5,400	0	161,800	
0	0	0	0	0	0	0	0	5,400	0	5,400	0	161,800	
0	0	0	0	0	0	0	0	7,200	0	7,200	0	59,100	
0	0	0	0	0	0	0	0	3,187,100	0	3,187,100	0	3,187,100	
0	0	0	0	0	0	14	14	2,620	0	2,620	0	7,135	
0	0	0	0	0	0	14	14	3,196,920	0	3,196,920	0	3,253,335	
0	0	0	0										

財産目録

2019年 3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	45,706
預金	当座預金		5,642,467
	みずほ銀行/新橋支店		3,011,875
	みずほ銀行/青山支店		2,630,592
	普通預金		18,731,373
	みずほ銀行/新橋支店		2,106,495
	みずほ銀行/新橋支店		322,610
	みずほ銀行/新橋支店(支部)		3,498,293
	三井住友銀行/日比谷支店		6,579,657
	三菱UFJ信託銀行/本店		2,299,226
	住友信託銀行/東京営業部		1,195,473
	みずほ銀行/札幌支店		150,732
	七十七銀行/県庁支店		192,630
	りそな銀行/堂島支店		573,488
	みずほ銀行/名古屋支店		427,094
	みずほ銀行/広島支店		291,821
	みずほ銀行/福岡支店		344,174
	みずほ銀行/松山支店		365,321
	北國銀行/本店営業部		135,211
	大和ネクスト銀行/ダイコク支店		249,148
	郵便振替貯金		3,095,621
	ゆうちょ銀行/一九支店		2,022,309
	ゆうちょ銀行/八支店		1,073,312
	未収会費		2,879,000
	入会金		4,500
	正学会員会費		2,484,500
	維持会員会費		250,000
	特殊会員会費		100,000
	アガミック会費		40,000
	未収金		4,136,717
	会誌・広告		114,912
	技報予約		733,860
	技報別刷		56,970
	技報バックナンバー		2,300
	テストチャート		1,211,695
	会誌・別刷		7,560
	年次大会		84,860
	冬季大会		60,100
	MTA		675,270
	和文論文掲載		1,045,440
	支部		21,513
	その他		122,237
	棚卸資産		11,728,614
	テストチャート完成品		10,960,329
	会誌50CD-ROM		768,285
	貯蔵品		119,000
	有価証券		5,000,000
	立替金		41,350
	その他		41,350
	仮払金		408,240
	年次大会		9,180
	その他		399,060
	貸倒引当金		59,100
流動資産合計			51,768,988
(固定資産)			
基本財産			
	定期預金		3,000,000
	定期預金		3,000,000
特定資産			
	退職給付引当資産		13,447,727
	普通預金	住友信託銀行/東京営業部	10,000,000
	普通預金	三井住友銀行/日比谷支店	3,447,727

	選奨基金		16,544,073
	当座預金	みずほ銀行 / 新橋支店	1,544,073
	普通預金	住友信託銀行 / 東京営業部	15,000,000
	啓発普及基金		14,000,000
	普通預金	みずほ銀行 / 新橋支店	4,000,000
	定期預金	大和ネクスト銀行 / ダイコク支店	10,000,000
	研究・特別企画基金		26,597,768
	普通預金	住友信託銀行 / 東京営業部	24,253,683
	普通預金	みずほ銀行 / 新橋支店	2,344,085
	設備拡充等特定資産		17,808,687
	普通預金	みずほ銀行 / 新橋支店	979
	郵便振替口座	ゆうちょ銀行 / 一九支店	8,513,841
	定期預金	大和ネクスト銀行 / ダイコク支店	5,000,000
	定期預金	三菱UFJ信託銀行 / 本店	3,564,680
	普通預金	住友信託銀行 / 東京営業部	382,249
	普通預金	三井住友銀行 / 日比谷支店	346,938
	記念事業特定資		36,212,411
	普通預金	住友信託銀行 / 東京営業部	20,000,000
	普通預金	三井住友銀行 / 日比谷支店	1,212,411
	定期預金	大和ネクスト銀行 / ダイコク支店	15,000,000
	会誌活性化等特定資産		35,871,500
	普通預金	三菱UFJ信託銀行 / 本店	517,922
	普通預金	住友信託銀行 / 東京営業部	35,000,000
	当座預金	みずほ銀行 / 青山支店	353,578
	事務局設備特定資産		860,310
	普通預金	三菱UFJ信託銀行 / 本店	860,310
	鈴木記念賞特定		1,821,079
	当座預金	みずほ銀行 / 新橋支店	375,245
	普通預金	三井住友銀行 / 日比谷支店	1,445,834
	発展事業基金		6,124,500
	郵便振替口座	ゆうちょ銀行 / 一九支店	6,124,500
その他固定資産	ソフトウェア		1,062,278
	什器備品		1
	保証金		1,714,800
固定資産合計			175,065,134
資産合計			226,834,122
(流動負債)			
	未払金		1,058,396
	MTA		30,888
	ファクト		67,066
	会誌編集		23,760
	技報発送費		28,533
	表彰・コンクール		70,280
	Web-IT・会員管理		391,040
	システム		
	支部		210,329
	その他		236,500
	前受会費		802,600
	入会金		500
	正学会員会費		302,100
	維持会員会費		500,000
	預り金		326,181
	源泉所得税		167,281
	住民税		108,900
	財形貯蓄		50,000
	賞与引当金		2,560,270
	未払法人税等		2,877,600
	未払消費税等		504,000
流動負債合計			8,129,047
(固定負債)			
	退職給付引当金		31,757,605
固定負債合計			31,757,605
負債合計			39,886,652
正味財産			186,947,470

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当すべき事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・無形固定資産・一括償却資産
定額法による減価償却を実施している。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、期末債権残高に一定率
を乗じて算出した額を計上している。

賞与引当金・・・翌期支払賞与の当該期間に相当する金額を計上している。

退職給付引当金・・・期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	3,000,000	0	0	3,000,000
小計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産				
選奨基金	16,935,117	0	391,044	16,544,073
退職給付引当資産	13,447,727	0	0	13,447,727
社会貢献活動基金	14,000,000	0	0	14,000,000
研究・特別企画基金	26,597,768	0	0	26,597,768
発展事業基金	5,918,994	354,000	148,494	6,124,500
特定資産支出				
設備拡充等特定資産	17,808,687	0	0	17,808,687
記念事業特定資産	36,212,411	0	0	36,212,411
会誌活性化等特定資産	37,871,500	0	2,000,000	35,871,500
事務局設備引当資産	860,310	0	0	860,310
鈴木記念賞特定資産	1,852,961	0	31,882	1,821,079
小計	171,505,475	354,000	2,571,420	169,288,055
合計	174,505,475	354,000	2,571,420	172,288,055

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	3,000,000		3,000,000	
小計	3,000,000		3,000,000	
特定資産				
選奨基金	16,544,073		16,544,073	
退職給付引当資産	13,447,727			13,447,727
社会貢献活動基金	14,000,000		14,000,000	
研究・特別企画基金	26,597,768		26,597,768	
発展事業基金	6,124,500		6,124,500	
特定資産支出				
設備拡充等特定資産	17,808,687		17,808,687	
記念事業特定資産	36,212,411		36,212,411	
会誌活性化等特定資産	35,871,500		35,871,500	
事務局設備引当資産	860,310		860,310	
鈴木記念賞特定資産	1,821,079		1,821,079	
小計	169,288,055		155,840,328	13,447,727
合計	172,288,055		158,840,328	13,447,727

5. 固定資産の取得価額、増減、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他固定資産			
ソフトウェア	1,453,632	391,354	1,062,278
その他工具備品	1	0	1
合計	1,453,633	391,354	1,062,279

6. 重要な後発事象

該当なし。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	基本財産	3,000,000	0	0	3,000,000
	基本財産計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産	選奨基金	16,935,117	0	391,044	16,544,073
	退職給付引当資産	13,447,727	0	0	13,447,727
	社会貢献活動基金	14,000,000	0	0	14,000,000
	研究・特別企画基金	26,597,768	0	0	26,597,768
	発展事業基金	5,918,994	354,000	148,494	6,124,500
	設備拡充等特定資産	17,808,687	0	0	17,808,687
	記念事業特定資産	36,212,411	0	0	36,212,411
	会誌活性化等特定資産	37,871,500	0	2,000,000	35,871,500
	事務局設備引当資産	860,310	0	0	860,310
	鈴木記念賞特定資産	1,852,961	0	31,882	1,821,079
	特定資産計	171,505,475	354,000	2,571,420	169,288,055

2. 引当金の明細

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
貸倒引当金	161,800	59,100	0	161,800	59,100
賞与引当金	2,553,135	7,135	0	0	2,560,270
退職給付引当金	29,816,256	3,169,813	1,228,464	0	31,757,605
引当金計	32,531,191	3,236,048	1,228,464	161,800	34,317,875

平成31年6月30日

内閣総理大臣

安倍 晋三 殿

法人の名称 一般社団法人映像情報メディア
学会

代表者の氏名 川添 雄彦

公益目的支出計画実施報告書等の提出について

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第127条第3項の規定により、別紙のとおり平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）の公益目的支出計画実施報告書等を提出いたします。

【別紙1：法人の基本情報】

法人コード	A013174
-------	---------

1. 基本情報

フリガナ	イッパンシャダンホウジンエイゾウジョウホウメディアガッカイ			
法人の名称	一般社団法人映像情報メディア学会			
主たる事務所の住所及び連絡先				
住所	郵便番号	都道府県名	市区町村丁番地等	補足住所
	105-0011	東京都	港区芝公園3丁目5番8号機械振興会館内	
代表電話番号	03-3432-4677	内線		FAX番号 03-3432-4675
代表電子メールアドレス	ite@ite.or.jp,iwahana@ite.or.jp,			
ホームページの有無	有			
ホームページアドレス	http://www.ite.or.jp			
代表者の氏名	川添 雄彦			
事業年度	04 月 01 日～ 03 月 31 日			
事業の概要	機関誌・論文集・研究資料・専門図書の刊行、映像情報メディアに関する技術等の研究・調査、研究発表討論会・講演会・講習会等の開催、研究の奨励および表彰、関連学術団体との連絡と協力、社会貢献事業など			

【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【平成30年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)の概要】

1. 公益目的財産額	198,987,317 円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額(①+②-③)	214,592,088 円
①前事業年度末日の公益目的収支差額	182,492,196 円
②当該事業年度の公益目的支出の額	38,742,633 円
③当該事業年度の実施事業収入の額	6,642,741 円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	0 円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 ^注	

注: 詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	①. 計画上の完了見込み	2019/3/31
	②. ①より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	198,987,317 円				
公益目的収支差額	185,540,321 円	182,492,196 円	216,379,321 円	182,492,196 円	0 円
公益目的支出の額	40,000,000 円	35,983,373 円	40,000,000 円	38,742,633 円	0 円
実施事業収入の額	9,161,000 円	8,192,498 円	9,161,000 円	6,642,741 円	0 円
公益目的財産残額	13,446,996 円	16,495,121 円	0 円	0 円	0 円

※前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。

監査報告

2019年5月10日

一般社団法人 映像情報メディア学会

会長 川添雄彦 殿

一般社団法人 映像情報メディア学会

監事 清水直樹 

監事 平和樹 

私たち監事は、2018年4月1日から2019年3月31日までの事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務執行の監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録等の監査を実施しました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

平成30年度公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告

令和元年5月10日

一般社団法人 映像情報メディア学会

会長 川添雄彦 殿

一般社団法人 映像情報メディア学会

監事 清水直樹



監事 平和樹



私たち監事は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの事業年度の公益目的支出計画の実施状況について、法令及び定款に基づき監査を行いましたので、次の通り報告します。

1. 監査の方法及びその内容

理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

公益目的支出計画実施報告書について、事業報告、財務諸表、及び関係書類の閲覧などを行い、事業および財産の状況を調査し、公益目的支出計画の実施状況の妥当性を検討しました。

2. 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、当法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

平成30年度は公益目的支出計画の完了予定年度ですが、計画予定通り支出が行われ公益目的支出計画が完了したことを確認しました。

以上

2019年度事業計画

1 はじめに（担当：石井総務理事）

30年余り続いた「平成」から「令和」へ元号が変わり、東京オリンピック・パラリンピックの開催を翌年に控えた2019年度が始まりました。1950年にテレビジョン学会として創設された本学会は、平成の時代に映像情報メディア学会へと名前をかえ、テレビジョン技術に留まらず、放送と通信が融合する時代に即した多様な分野に活動範囲を拡大してきました。今や、映像情報は、放送の枠を越え、情報処理・通信・記録装置、デジタルサイネージ、医療、美術、教育、セキュリティ、さらにはコンテンツ生成や流通などの多岐に渡る分野で、メディアとしての存在感をいっそう高めています。本学会事業はこれら幅広い技術分野の発展に貢献して参りました。

少子高齢化が進む日本社会では、労働者不足が懸念されながらも、新たな雇用の創出や国際化推進の好機と捉えて、次なる成長への足掛かりとして期待する声も高まりつつあります。労働力に限りがある環境下で、快適に生活できる持続可能な社会を形成するには、一人一人が高度に発達した情報化社会の知識を深め、如何に効率よく社会活動や生活に活かしていくかが重要となります。こうした中で、映像情報メディア全般を網羅する本学会事業では、広く世界に目を向けながら、未来社会の礎となる映像基盤技術や世代を超え新たな映像価値の創生を目指して、学術や産業の発展に貢献し、実りある未来社会の形成をサポートする役割を担っていきます。

本学会では、研究・調査活動や会誌、論文誌の発行はもとより、年次大会や研究会、講習会の場を通して、研究者間のネットワークの充実を図っていきます。また、円滑な学術活動の推進に貢献するため、関連学術分野の書籍出版やテストチャートの作成・頒布を行います。一方で、継続課題であった会員数の減少は、依然として厳しい状況が続いております。引き続き、財源の確保による学会活動の安定化を目指して、学会への接触機会向上や効果的な広報活動を通じた会員数増加の施策に取り組んでいきます。

このような現状を踏まえて、2019年度は「学会の活性化」、「新分野の開拓」、「広報活動と会員サービスの拡充」の3つを基本施策として事業運営を進めていきます。

また、本学会は2020年に創立70周年を迎えます。前年度の体制では、節目となるこの年に本学会の歩みを振り返り、さらに未来に向けた学会の持続的発展に繋がる議論の場を提供するための記念事業の開催を検討して参りました。2019年度は、この事業計画を具現化すべく、事業実施に向けた企画・体制・予算の仔細を理事会で議論していきます。

【2019年度基本施策】

1-1 学会の活性化

2019年度の学会運営体制は、17名の理事を中心メンバーとした13の委員会を設置し、2018年度に取り纏めたアクションプランおよび申継事項をもとに、理事会と各委員会の情報共有を密に図りながら、新年度の活動を進めていきます。理事会では、委員会のアクションプランの中間・最終報告を通して施策の継続・終了判断を行い、PDCAを着実に実行します。

2018年度予算は、若干の黒字編成でスタートし、テストチャート頒布収益の増加や事務経費の削減などに努めました。12月の理事会にて各費目の収支の見直しを反映した補正予算案を承認しましたが、赤字基調の予算案となり結果的に年度末決算において赤字を計上することとなりました。2019年度は学会活性化のために敢えて事業を縮小することなく、テストチャート新シリーズの収益増などを見込みますが、会費収入減の影響もあり赤字予算を編成することとなりました。

2019年度の学会活性化に向けた活動では、2018年度に類型別（シニア、若手研究員、学生、女性）の会員要望に応える施策として学会活性化委員会において検討した、シニア層に向けたライフメンバー制度（年会費無料、大会参加費は学生と同額）や、学生と若手社会人の交流イベント、年次大会等で「女性研究者」による基調講演や「女性研究者」をテーマとしたパネルセッション等の開催を検討します。また、今年度も継続して取り組む会員数増に向けた施策として、非会員で大会参加された方へ一定期間会員扱いとする準会員制度（学会誌電子購読権などの無料サービスを提供）を開始し、学会サービスへの接触機会を増やすことで新規入会への転換を図ります。これらの活性化施策を通して、会員数の増加や維持に繋げるほか、維持会員の継続、口数増、新規開拓への取り組みを継続して進めます。

2018年度も本部役員が支部大会等に参加して対話活動を行いました。2019年度もこの活動を継続して支部との連携強化を図り、事業運営の課題を共有しながら改善と更なる発展に向けた施策に繋げ、学会全体の活性化を図っていきます。

本学会の重要な収益源となっているテストチャートは、好評を博している超高精細・広色域標準動画A、Bシリーズに続き、2018年度より高ダイナミックレンジ（HDR）撮影によるCシリーズの頒布を開始しました。今年度は、年次・冬季大会や研究会、各種イベント機会でのテストチャート販売促進に努めるとともに、新たなテストチャートとして、超高精細・広色域標準動画シリーズの高フレームレート化対応やAR・VR映像制作の可能性の検討を進めます。

また、研究委員会が所掌する研究会については、会誌特集と連動した起業工学20周年シンポジウムを開催するなど、より魅力的な研究会の実施に向けた新規企画等の検討を進めます。

1-2 新分野の開拓

日本では、2018年12月1日に世界初となる4K/8K衛星放送が開始され、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて一層の普及促進が図られ、放送受信機はもとより、番組制作や有線・無線伝送のための機器、関連する様々な映像技術の加速的進歩が見込まれます。一方、通信の分野では次世代移動通信である5Gが国内外で実用化され、高精細映像に適した高速・大容量で低遅延な伝送サービスの提供がスタートします。5Gでは、4K/8Kの高精細映像だけでなく、近年デバイスの進歩が著しいAR・VR映像の配信や、これまで人の目が捉えてきた映像情報をIoT機器として配置された様々なセンサが感知し、ネットワーク上でやり取りすることで、医療、教育、建築、自動運転などの分野への応用が期待されています。本学会では、こうした時代に相応しいトピカルなテーマに焦点をあて、新分野の開拓を進めます。

2018年度に引き続き、オリンピック・パラリンピックでの活用に向けた映像情報技術や、5Gなどの次世代伝送技術等をテーマにした企画を検討します。また、2019年度の年次大会

では、AR・VRや自動運転システム、医療応用などに関する企画を進めます。

新分野開拓の一環として、国内外の関連他学会との連携強化を図り、本学会の発展に繋げていきます。2018年度の年次大会では、韓国放送メディア技術学会（KIBME: Korean Institute of Broadcast and Media Engineers）からの招待講演やジョイントセッションを実施しました。引き続き2019年度も、KIBMEやブラジルテレビ放送技術協会（SET）との連携を進め、相互の講師派遣等を計画していきます。また、国際会議企画として、今年度もディスプレイ国際ワークショップ（IDW2019）をSID（Society for Information Display）と共催します。

1-3 広報活動と会員サービスの拡充

2018年度は、ホームページの積極的な活用や技術報告のオンライン化、メーリングリストや各種SNSを活用した会員サービスを継続しました。引き続き2019年度も、WebITの活用による広報活動の充実を図るとともに、会員サービスの一層の向上を目指した施策を進めます。

学会や研究委員会が開催するシンポジウムや講演会映像のネット経由での提供など、イベント広報としてのネット活用の推進に取り組みます。また、2018年度に引き続き、4K・8K機材展やInter BEE（国際放送機器展）への出展や業界紙への広告出稿を通して、戦略的に広報活動を展開していきます。このほか、AR・VRや人工知能（AI）、立体映像といった最新の映像技術によるコンテンツ制作手法など、時流に則した講習会の企画や会誌記事などを通して知見を公開し、会員サービスの充実を図っていきます。

学会や研究委員会から会員へ向けた情報発信を充実する目的で、2018年度より検討を始めた個人認証システム（いわゆるマイページと呼ぶ個人会員用のページ）の導入については、WebIT化委員会を中心にシステムのハード、ソフトの両面からの検討を継続し、早期の導入に繋げていきます。

また、2020年に開催予定の創立70周年記念事業を広報活動の一環と位置付け、2019年度の体制下で実行委員会を設置して、過去の記念事業の実施状況も念頭に置きながら、これまでの学会活動の歩みを振り返る展示や、記念事業に相応しい企画の策定に取り組んでいきます。

2. 機関誌・論文集・研究会資料等の刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

①冊子体

編集委員会（編集長：八木伸行）において、会員に新しい情報を提供するとともに、会員の研究発表の場として「映像情報メディア学会誌」を編集、発行し（隔月（奇数月））、会員に配布します。内容については、特集号を中心に企画し、下記の項目を予定しています。

また、特集以外に、タイムリーな技術解説記事、教科書的な連載講座、平易で読み物的な解説記事、年次・冬季大会との連動企画記事、研究委員会、支部との連携による解説記事など、多様な会員のニーズを満たすべく、バランスのとれた魅力的な誌面を目指します。会誌関連動画コンテンツなど、Webサイトとの連携強化を継続して誌面の魅力向上に努めます。学会HPでは<知っておきたいキーワード><年報><輝け！リケジョ><研究開発ツール><話題；見聞記><報告><ベンチャービジネス>を、引き続き全文公開いたします。連載講座に

については、シリーズ終稿後に全文公開を行います。

(冊子体)

巻号	通巻号	特集題目案	奥付発行年月日	発行部数	
73	3	824	質感研究の最前線	2019年5月1日	3,500
			圧縮センシングとスパースモデリング (北海道支部題目提案)		
73	4	825	設立20周年記念 (アントレプレナー研究委員会企画提案)	2019年7月1日	3,500
73	5	826	ライトフィールドの取得・再生技術	2019年9月1日	3,500
			スポーツ中継を支える技術 (東北・関西支部題目提案)		
73	6	827	アクセシビリティサービス最前線	2019年11月1日	3,500
			自動運転時代の車載エレクトロニクス		
74	1	828	AI記者～ニュース原稿を自動作成する～	2020年1月1日	3,500
			AI技術の実応用最前線		
74	2	829	コネクテッドカーおよび自動運転 (関西支部題目提案)	2020年3月1日	3,500
			イメージセンシング (情報センシング研究委員会企画提案)		

(2) 論文関係

①和文論文

和文論文編集委員会（委員長：篠田浩一）において、オンラインジャーナルとして冊子体送本と同時期に全文を一般公開します。内容については、下記特集を予定しています。また、各研究委員会との連携を一層強化し、特集号の充実を図り、新たな試みを企画し、論文投稿数、掲載数の確保に努力します。さらにはTwitterおよび学会Facebookにより、継続して論文募集を行います。

(オンラインジャーナル/投稿欄)

巻号	月号	特集題目案	公開年月日
73	5	一般論文	2019年4月26日
73	7	一般論文	2019年6月25日
73	9	一般論文	2019年8月25日
73	11	ディスプレイ-IDW'18を中心にー	2019年10月25日
74	1	選奨（技術振興賞/映像情報メディア未来賞）受賞者論文（招待論文）	2019年12月20日
		博士課程学生論文特集	
74	3	一般論文	2019年2月25日

②英語論文 (MTA)

MTA編集委員会（委員長：篠田浩一）において、会員のグローバルな研究発表の場としてオンラインジャーナル「ITE Transactions on Media Technology and Applications (略称, MTA)」

を編集，年4回発行し，会誌発行日と同時期に全文を一般公開します．内容については，毎号特集を中心に企画し，下記を予定しています．また，新たな試みを企画し，幅広く投稿勧誘を行うなど，一定数以上の投稿数ならびに掲載数の確保に努力します．さらに，MTAの引用数の増加と国際発進力の強化を引き続き行い，IF取得を目指して努力します．

Vol., No.	Special Section Title	公開年月日
Vol. 7, No. 3	Technology for Information and Content Accessibility	2019年7月1日
Vol. 7, No. 4	IDW ' 18	2019年10月1日
Vol. 8, No. 1	Doctoral Student Papers	2020年1月1日
	Advanced Multimedia Transmission Technology and Its Application	
Vol. 8, No. 2	Sports Information Processing Technology and Its Application	2020年4月1日

(3) 大会講演予稿集の発行

- ① 2019年度年次大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）作成。
参加予定人数：320名
- ② 2019年度冬季大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）作成。
参加予定人数：240名

(4) 研究会資料「技術報告」の刊行

研究会資料「映像情報メディア学会技術報告」を各号約170部発行します。

(5) 講習会テキストの発行

随時開催する講習会テキストについて，開催時には各回50部の作成を目標とします。

3. 調査研究活動（定款 第4条（3））

学会の最も基本的な活動である研究活動については，最近の急速な技術の進展に対処するため，例年以上に積極的に推進します。

技術委員会（委員長：伊東 晋）において，広汎かつ長期にわたる観点から研究活動の現況を把握し，研究委員会および時限研究会の活動を統轄調整し，その円滑な運営をはかります。研究会の活性化についても，鋭意検討を進めます。研究活動を実施するための下記委員会を置きます。

研究委員会が開催する研究会は，会員が積極的に発表・討議に参加できるよう公開開催とします。

また，研究会発表資料「映像情報メディア学会技術報告」（含：CD-ROM版）を研究委員会別予約制により有料頒布します。

時限研究会の研究の経過・成果は，随時研究集会，講演会を開催あるいは報告書を作成して公表します。

<研究委員会>

委 員 会 名	委 員 長 名
情報センシング研究委員会	秋 田 純 一
情報ディスプレイ研究委員会	木 村 宗 弘
マルチメディアストレージ研究委員会	石 井 紀 彦
放送技術研究委員会	斎 藤 恭 一
ヒューマンインフォメーション研究委員会	永 井 岳 大
メディア工学研究委員会	田 川 憲 男
映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会	向 井 信 彦
アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会	樺 澤 哲
立体映像技術研究委員会	堀 越 力

<時限研究会>

委 員 会 名	委 員 長 名
スポーツ情報処理時限研究会	渡 辺 裕

(1) <研究会年間予定>

「情報センシング研究会」委員長：秋田純一（金沢大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2019年 6月 6日 ～ 7日	石川	画像入力デバイス・方式, インタラクティブシステム, バイオメトリクス	15件	20～30名
6月18日	東京	高機能イメージセンシングとその応用	未定	20～30名
7月	北海道	イメージセンサのインタフェース回路, アナログ回路	未定	20～30名
9月	東京	イメージセンサ	未定	20～30名
11月	神奈川	立体映像, 高臨場感映像	未定	20～30名
11月	東京	新機能工学素子とイメージセンサー	未定	20～30名
2020年 2月	東京	赤外線センサ (赤外放射の応用関連学会)	未定	20～30名
3月	東京	固体撮像技術	未定	20～30名

「情報ディスプレイ研究会」委員長：木村宗弘（長岡技術科学大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2019年 7月16日	東京	Display Week 2019 報告会	未定	20～30名
8月 2日	東京	ディスプレイ	未定	20～30名
10月	東京	画像技術, VR/AR, ヒューマンファクター	未定	20～30名
11月	神奈川	立体映像, 高臨場感映像	未定	20～30名

11月	東京	高臨場感ディスプレイフォーラム	未定	20～30名
2020年 1月	鳥取	発光型・非発光型ディスプレイ	未定	20～30名
3月	東京	ディスプレイ材料・製造技術	未定	20～30名

「マルチメディアストレージ研究会」委員長：石井紀彦（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2019年 6月13日 14日	宮城	記録システム	12件	20～30名
7月19日	東京	固体メモリ・媒体	未定	20～30名
10月17日 18日	福岡	ヘッド・スピントロニクス	未定	20～30名
12月 5日 6日	愛媛	信号処理	未定	20～30名
2020年 2月	北海道	ITS画像処理, 映像メディア	未定	20～30名

「放送技術研究会」委員長：斎藤恭一（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2019年 6月14日	大阪	番組制作技術・送出技術	未定	20～30名
7月25日 26日	北海道	放送現業技術・送受信技術	未定	20～30名
9月 6日	愛媛	移動送受信技術	未定	20～30名
10月24日 25日	福井	放送・通信連携, 知的マルチメディア処理システム等	未定	20～30名
10月	東京	放送局見学会：日本テレビ	未定	20～30名
11月21日 22日	山口	放送技術, 有線技術, 光技術等	未定	20～30名
12月 5日 6日	岩手	画像符号化・通信・ストリーム技術・放送技術	未定	20～30名
2020年 1月23日 24日	九州	アンテナ・伝搬, マイクロ波における学生若手発表	未定	20～30名
2月20日 21日	岐阜	学生・若手発表	未定	20～30名
3月 6日	鹿児島	デジタル放送技術	未定	20～30名

「ヒューマンインフォメーション研究会」委員長：永井岳大（東京工業大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2019年 6月10日 11日	東京	人工現実感, エンタテインメント, メディアエクスペリエンス	未定	20～30名
10月	東京	画像技術, VR/AR, ヒューマンファクター	未定	20～30名
12月	北九州	視聴覚情報処理技術	未定	20～30名
2020年 2月	北海道	ITS画像処理, 映像メディア	未定	20～30名

3月	東京	視聴覚	未定	20～30名
----	----	-----	----	--------

「メディア工学研究会」委員長：田川憲男（首都大学東京）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2019年 6月 6日 7日	石川	画像入力デバイス・方式, インタラクティブシステム, バイオメトリクス	11件	20～30名
7月16日	東京	画像処理・マルチメディア情報処理・インタフェースとその応用	未定	20～30名
8月26日 27日	岡山	サマーセミナー（若葉研究者の集い）	未定	20～30名
9月19日 20日	新潟	マルチメディア通信／システム, ライフログ活用技術, IP放送／映像伝送, メディアセキュリティ	未定	20～30名
11月	熊本	スポーツ情報処理／解析	未定	20～30名
2020年 1月 8日 ～10日	インドネシア	IWAIT2020	未定	20～30名
2月	北海道	ITS画像処理, 映像メディア	未定	20～30名
2月	神奈川	学生研究発表会	未定	20～30名

「映像表現&コンピューターグラフィックス研究会」委員長：向井信彦（東京都市大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2019年 8月	未定	画像	未定	20～30名
9月	東京	3次元画像及びホログラフィ	未定	20～30名
10月	未定	感性とメディアおよび高精細度画像処理	未定	20～30名
11月	東京	高臨場感ディスプレイフォーラム	未定	20～30名
2020年 1月 8日 ～10日	インドネシア	IWAIT2020	未定	20～30名
2月	北海道	ITS画像処理, 映像メディア	未定	20～30名
3月	東京	映像表現・芸術科学フォーラム 2020 (Expressive Japan 2020)	未定	20～30名

「アントレプレナー・エンジニアリング研究会」委員長：樺澤 哲（サンブリッジ グローバルベンチャーズ）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2019年 5月25日	東京	アート, デザインと ICTテクノロジーのクロスプロデュースによるイノベーションによる地方創生・地域の課題解決と東日本大震災からの8年間を振り返って	未定	20～30名
7月 3日	東京	起業工学20周年記念シンポジウム	未定	20～30名
10月	東京	地域創生と起業工学（仮）	未定	20～30名

「立体映像技術研究会」委員長：堀越 力（湘南工科大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
------	-----	-------	-----	-------

2019年 6月13日 14日	長崎	知的マルチメディアシステム, 組込み応用システム, 立体映像技術	未定	20~30名
9月	東京	3次元映像およびホログラフィー	未定	20~30名
10月	東京	画像技術, VR/AR, ヒューマンファクター	未定	20~30名
11月	神奈川	立体映像, 高臨場感映像	未定	20~30名
11月	東京	高臨場感ディスプレイフォーラム	未定	20~30名
2020年 3月	東京	立体の視覚・生体, コンテンツ, アプリケーション, 立体映像技術	未定	20~30名

「スポーツ情報処理時限研究会」委員長：渡辺 裕（早稲田大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2019年 6月10日 11日	東京	人工現実感, エンタテインメント, メディアエクスペリエンス	未定	20~30名
11月	熊本	スポーツ情報処理/解析	未定	20~30名
2020年 2月	東京	スポーツ情報処理	未定	20~30名

4. 大会, 講演会の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する大会を企画し, 会員のみならず, 広くわが国の技術レベルを高めるべく, 適正規模で開催します。

（1）2019年度年次大会（主催）

2019年8月28日～30日の3日間, 東京工業大学・大岡山キャンパスにおいて開催します。

このための実行委員会（委員長 熊澤逸夫/副会長）を置き, 運営にあたります。

（2）2020年度冬季大会（主催）

実行委員会（委員長 今井 亨/副会長）を置き, 時期・場所の検討を進めるとともに, 大会の運営にあたります。

5. 国際会議の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する国際会議に積極的に取り組み, 国外との交流を図ります。

（1）第26回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW2019）（共催）

2019年11月27日～29日の3日間, 札幌コンベンションセンターにおいて, SID（本部）と共催します。

（2）第3回 ICAI（International Conference on Advanced Imaging）（協力）

2020年11月1日～6日の6日間, 幕張メッセにて開催する第3回 ICAI のプログラム企画立案に協力します。

（3）この他にも, 国際会議検討委員会において検討を進めると共に, 他学会との関係性維持にも努めてまいります。

6. ITEテストチャートの作成・頒布(定款 第4条(2))

ITEテストチャート委員会(委員長：井口和久)を中心に次の事業展開を行います。

- (1) 超高精細・広色域標準動画像小委員会(主査：松田一朗)，ARIBと共同で超高精細・広色域標準動画像Dシリーズ(HFR：ハイフレームレート版)の検討を進めます。
- (2) 3次元マルチチャンネル音響標準音源小委員会(主査 小野一穂)，ARIBと共同で音源の豊富化を目的とした3次元マルチチャンネル音響標準音源Bシリーズの準備を行い、年内の頒布開始を目指します。

7. 図書の刊行・企画(定款 第4条(2)項)

編集委員会(編集長：八木伸行)は、会誌連載講座、会誌連載シリーズなどの単行本化などを検討します。出版が困難な場合は、会員サービスとして、学会ホームページにて全文公開します。

8. 研究の奨励および業績の表彰(定款 第4条(5))

(1) 学会賞関係

選奨委員会(委員長：熊澤逸夫/副会長)において、本学会にふさわしい選奨のありかた、選定方法等について検討を行います。その結論に基づき、丹羽高柳賞、技術振興賞、鈴木記念奨励賞、映像情報メディア未来賞の諸賞を選定し、贈呈いたします。

また、年次大会・冬季大会で優秀な講演を行った学生・高専生を対象にそれぞれの、大会実行委員会で選定し、「学生優秀発表賞」を贈呈いたします。研究会での発表を対象とした優秀発表は、各研究委員会が選定し、「優秀研究発表賞」を贈呈いたします。

- ①丹羽高柳賞：功績賞：2名以内
〃 業績賞：2件以内
〃 論文賞：3件以内
- ②鈴木記念奨励賞：5名以内
- ③技術振興賞：進歩開発賞(現場運用部門)：3件以内
〃 進歩開発賞(研究開発部門)：3件以内
〃 コンテンツ技術賞：3件以内
- ④映像情報メディア未来賞：フロンティア賞：2件以内
次世代テレビ技術賞：2件以内
- ⑤学生優秀発表賞：年次大会：5件以内
〃 冬季大会：5件以内
- ⑥優秀研究発表賞：10件～15件程度

(2) フェロー会員の認定

フェロー選定委員会において、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本学会活動に貢献された正会員の中から、フェロー会員を10名以内認定します。選出に際し、選定委員会（委員長：今井 享／副会長）を置き運営します。

9. 青少年および社会に対する啓発普及（定款 第4条（7））

一般市民も対象にした公開講演会（入場無料）の開催を、2019年年次大会行事として検討しています。

また、2019年度冬季大会においても、一般向け公開講演会等の開催を検討いたします。

10. 会議および委員会等（定款 第4条（8））

- (1) 第66回定時社員総会：2020年5月29日開催（予定）
- (2) 理事会：6月・7月・9月・10月・12月・1月・2月・3月・4月・5月の10回開催（年3回、会長が指名する代表代議員の参加を予定）
- (3) 学会活性化委員会（収支構造改善・会員増強・記念事業）：随時開催
2020年6月1日に創立70周年を迎えることから、2020年度に記念事業を計画するワーキンググループを本委員会内に組織
- (4) 編集関係委員会
 - ① 編集委員会（企画委員会）：年7回開催
 - ② 同（年次企画委員会）：年3回開催
 - ③ 同（海外文献部門委員会）：年4回程度開催
 - ④ 同（ニュース部門委員会）：年5回程度開催
- (5) 論文委員会（和文論文運営委員会、英語論文運営委員会）：随時開催
- (6) 選奨関係委員会（メール審議含）
 - ① 選奨委員会：第1回会議を11月に開催し、前年度申継事項および諸課題を検討
 - ② 「技術振興賞」進歩開発賞（現場運用部門）・（研究開発部門）選考専門部会：3月に開催
 - ③ 「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会：3月に開催（地方開催予定）
 - ④ 映像情報メディア未来賞選考専門部会：3月に開催
 - ⑤ 「丹羽高柳賞」功績賞・業績賞・論文賞の選考
※功績賞・業績賞は推薦件数により1回または2回投票、論文賞は1回投票
 - ⑥ 鈴木記念奨励賞の選考（2回投票）
- (7) フェロー選定委員会：2回開催（推薦締切を12月、第1回委員会は1月下旬予定）
- (8) 年次大会実行委員会：6月～9月の期間、および2月～3月の期間に合計3回開催
- (9) 冬季大会実行委員会：9月～1月の期間に3回開催

- (10) 技術委員会：4月～3月の期間に3回～4回開催
- (11) テストチャート委員会：随時開催
- (12) Web I T化委員会：随時開催
- (13) 広報委員会：随時開催
- (14) 映像情報メディア発展事業資金運営委員会：随時開催
- (15) 長期計画検討委員会：随時開催
- (16) 電気・情報関連学会連絡協議会：7月と1月の年2回

以上

2019年度予算報告書

自 2019年 4月 1日

至 2020年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

収支予算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

【本部/支部】
(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,000	1,000	0
基本財産受取利益	1,000	1,000	0
特定資産運用利益	200,000	200,000	0
受取収入	200,000	200,000	0
受取収入	30,000	30,000	0
受取収入	30,000	30,000	0
正学学生会員会費	55,055,000	57,730,000	▲ 2,675,000
維持特別学生会員会費	30,000,000	32,000,000	▲ 2,000,000
7カテミッパ-ト-事業	23,375,000	23,850,000	▲ 475,000
事業誌	800,000	1,000,000	▲ 200,000
事業誌	880,000	880,000	0
年会	32,130,000	31,330,000	800,000
冬季講習大会	5,780,000	5,780,000	0
講演技術報告	1,100,000	1,100,000	0
図書関係	3,000,000	3,000,000	0
スタート収入	1,400,000	1,400,000	0
受取収入	1,100,000	1,100,000	0
受取収入	7,550,000	7,750,000	▲ 200,000
受取収入	200,000	200,000	0
受取収入	12,000,000	11,000,000	1,000,000
受取収入	0	360,000	▲ 360,000
受取収入	0	360,000	▲ 360,000
受取収入	350,000	350,000	0
受取収入	350,000	350,000	0
受取収入	801,000	501,100	299,900
受取収入	1,000	1,100	▲ 100
受取収入	800,000	500,000	300,000
経常収益計	88,567,000	90,502,100	▲ 1,935,100
(2) 経常費用			
事業費	60,645,000	62,827,000	▲ 2,182,000
給派料遣手賃当金	18,352,000	18,352,000	0
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	1,140,000	1,140,000	0
給派料遣手賃当金	2,405,000	2,404,000	1,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	895,000	1,235,000	▲ 340,000
給派料遣手賃当金	3,981,000	3,675,000	306,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	1,466,000	1,397,000	69,000
給派料遣手賃当金	215,000	350,000	▲ 135,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	14,354,600	16,044,600	▲ 1,690,000
給派料遣手賃当金	5,295,000	5,346,000	▲ 51,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	633,000	633,000	0
給派料遣手賃当金	1,290,000	1,110,000	180,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	815,000	945,000	▲ 130,000
給派料遣手賃当金	905,000	910,000	▲ 5,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	100,000	180,000	▲ 80,000
給派料遣手賃当金	4,836,400	5,343,400	▲ 507,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	900,000	900,000	0
給派料遣手賃当金	562,000	562,000	0
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	2,500,000	2,300,000	200,000
給派料遣手賃当金	31,534,000	31,311,100	222,900
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	15,550,000	15,099,000	451,000
給派料遣手賃当金	1,795,000	1,995,000	▲ 200,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	189,000	507,000	▲ 318,000
給派料遣手賃当金	231,000	186,000	45,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	243,000	218,000	25,000
給派料遣手賃当金	195,000	230,000	▲ 35,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	1,508,000	1,508,000	0
給派料遣手賃当金	367,000	367,000	0
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	250,000	250,000	0
給派料遣手賃当金	500,000	500,000	0
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	1,648,000	1,633,000	15,000
給派料遣手賃当金	560,000	570,000	▲ 10,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	250,000	50,000	200,000
給派料遣手賃当金	5,036,000	5,035,000	1,000
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	342,000	293,100	48,900
給派料遣手賃当金	2,100,000	2,100,000	0
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	600,000	600,000	0
給派料遣手賃当金	100,000	100,000	0
福旅通消修賃支諸会支広委函雑法	70,000	70,000	0
経常費用計	92,179,000	94,138,100	▲ 1,959,100
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 3,612,000	▲ 3,636,000	24,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	▲ 3,612,000	▲ 3,636,000	24,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 3,612,000	▲ 3,636,000	24,000
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	▲ 3,612,000	▲ 3,636,000	24,000
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	▲ 3,612,000	▲ 3,636,000	24,000

2019年度 予算-支部合算-

(単位:円)

科 目	要求合計額	備 考
I. 事業活動収支の部		
1. 事業活動収入		
本部交付金	6,465,000	
研究会等補助金収入	30,000	
事業収入	1,100,000	
連合大会	0	
講習会収入	1,100,000	
講演会収入	0	
見学会収入	0	
年次大会	0	
雑収入	0	
連合大会繰入金	0	
事業活動収入計	7,595,000	
2. 事業活動支出		
事業費支出	3,745,000	
連合関係費	905,000	
講習会費	805,000	
講演会費	740,000	
見学会費	310,000	
研究会費	175,000	
年次大会費	55,000	
支部ホームページ	195,000	
その他事業費	560,000	
管理費支出	3,850,000	
交通費	139,000	
通信費	142,000	
消耗品費	70,000	
会議費	13,000	
総会費	305,000	
役職会費	210,000	
支部長会議費	320,000	
委託経費	2,536,000	
雑費	115,000	
事業活動費支出計	7,595,000	
事業活動収支差額	0	
II. 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
各種基金取崩収入	0	
引当金戻入収入	0	
発展事業資金収入	0	
投資活動収入計	0	
2. 投資活動支出		
各種基金取得支出	0	
引当金繰入支出	0	
発展事業資金繰入支出	0	
投資活動支出計	0	
投資活動収支差額	0	
III. 財務活動収支の部		
1. 財務活動収入	0	
2. 財務活動支出	0	
財務活動収支差額	0	
IV. 予備費支出	0	
当期予算収支差額	0	
前期繰越予算収支差額	0	
次期繰越予算収支差額	0	

2019年度 予算-支部内訳明細

科 目	北海道	東北	北陸	東海
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
本部交付金	550,000	446,000	320,000	710,000
研究会等補助金収入	0	0	0	0
事業収入	0	0	0	0
連合大会	0	0	0	0
講習会収入	0	0	0	0
講演会収入	0	0	0	0
見学会収入	0	0	0	0
年次大会	0	0	0	0
雑収入	0	0	0	0
連合大会繰入金	0	0	0	0
事業活動収入計	550,000	446,000	320,000	710,000
2. 事業活動支出				
①事業費支出	350,000	320,000	200,000	565,000
連合関係費	100,000	160,000	80,000	75,000
講習会費	0	5,000	0	0
講演会費	250,000	50,000	40,000	90,000
見学会費	0	50,000	0	250,000
研究会費	0	5,000	30,000	0
年次大会費	0	5,000	0	0
支部ホームページ	0	5,000	0	0
その他事業費	0	40,000	50,000	150,000
②管理費支出	200,000	126,000	120,000	145,000
交通費	0	2,000	50,000	10,000
通信費	20,000	15,000	5,000	20,000
消耗品費	25,000	15,000	0	5,000
会議費	0	3,000	0	0
総会費	15,000	45,000	30,000	65,000
役職会費	15,000	5,000	25,000	5,000
支部長会議費	120,000	35,000	0	30,000
委託経費	5,000	3,000	10,000	10,000
雑費	0	3,000	0	0
事業活動支出計	550,000	446,000	320,000	710,000
事業活動収支差額	0	0	0	0
II. 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
各種基金取崩収入	0	0	0	0
引当金戻入収入	0	0	0	0
発展事業資金戻入収入	0	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0	0
2. 投資活動支出				
各種基金取得支出	0	0	0	0
引当預金繰入支出	0	0	0	0
発展事業資金繰入支出	0	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0	0
III. 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	0
2. 財務活動支出	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0
IV. 予備費支出	0	0	0	0
当期収支差額	0	0	0	0
次期繰越金	0	0	0	0
収支差額	0	0	0	0

2019年度役員改選選挙結果

2019年度役員改選選挙は、名誉会員および正会員の投票により行われ、以下の方々を選出した。
なお、理事の担務は5月31日開催の臨時理事会において協議のうえ正式に確定する。

<投票期間：2月23日（土）0時～3月22日（金）24時>

次期会長 : 児野昭彦（NHK）
副会長（本部）: 今井 亨（NHK）
副会長（支部）: 馬場口登（大阪大学）
総務担当理事 : 松田一郎（東京理科大学）
会計担当理事 : 森住俊美（NTT）
調査担当理事 : 菅野 勝（KDDI 総合研究所）
編集担当理事 : 山崎俊彦（東京大学）
編集担当理事 : 林 直人（NHK エンジニアリングシステム）
企画担当理事 : 高橋裕樹（電気通信大学）
監事 : 三嶋英俊（三菱電機）

2018年度役員・委員等名簿

(2019年3月31日現在)

注) 氏名欄の「→」は、任期中の交代を示す。

(1) 役員・代議員

*印：代表代議員

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
会長	川添雄彦	N T T	〃	佐藤雅一	北九州市立大学
次期会長	相澤清晴	東京大	〃*	佐藤洋一	東京大学
副会長	三谷公逸	N H K	〃	澤利明	ytv Nextry
〃	熊澤逸夫	東京工業大	〃	澤見英直	岡山理科大学
〃	並川巖治	関西テレビ	〃	清水木	NHK-ES
編集長	鶴岡信伸	三重大学	〃	鈴木直勝	NHK仙台
総務担当	八木村伸	京都市大	〃	関口正康	住友電気工業大
〃	高石井啓二	N T T	〃	高橋秀也	東京農工大
会計担当	菅原真紀子	N H K	〃*	高橋林徹	大阪市立大
〃	高柳洋一	ソニー	〃	高田川誠	TBSテレビ
調査担当	居原直昌	ASTROデザイン	〃	田嶋康弘	N T T
〃	三科直智	KDDI総合研究所	〃	谷口信一	首都大
編集担当	伊藤泉博	N H K	〃	都立竹井	東京理科大学
〃	高深澤	東京工業大	〃	土鳥秀啓	名城大
企画担当	清水直和	東京農工大	〃	名手川一	NHK大阪道
〃	青木孝文	TBSテレビ	〃*	並野延	テレビ北海
代議員	秋田純一	NHK-ES	〃	乗瀨本	東京芸大
〃	池田哲臣	東芝テック	〃*	濱田松	関西テレビ
〃	石井紀彦	東北大学	〃	藤井井	広島工業大
〃*	和泉田智志	金沢大	〃	藤堀田	東北工業大
〃	伊丹志誠	NHK技研	〃	堀田越	NHK学園
〃	今井篤治	NHK技研	〃	堀科谷	NHK福岡
〃	浦野丈人	日本テレビ	〃	三宮浦	NHK札幌
〃	小川哲	NHK技研	〃	宮崎上	NHK朝日
〃	川添雄彦	パブリックグローバルベンチャーズ	〃	村森柳	テレビ朝日
〃	重岡知憲	N T T	〃	山吉	湘南工科大学
〃	→河端英一	N H K	〃	渡邊	NHK技研
〃	川前治子	マクセル	〃		NHK古屋
〃	菅真紀	ソニー	〃		大阪市立大
〃	神田文裕	N H K	〃*		愛知県立大
〃*	小島敏	フジテレビ	〃		愛知工業大
〃*	小室孝之	埼玉大	〃		KDDI総合研
〃	酒澤茂	大阪工業大	〃		読売テレビ
					福岡大
					早稲田大
					鹿児島大

(2) 学会活性化委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	熊澤逸夫	東京工業大	委員	福本正義	N E C
代表幹事	高村誠之	N T T	〃	堀越力	湘南工科大学
幹事	石井啓二	N H K	〃	角田貢浩	日本体育大
〃	菅真紀子	ソニー	〃	飯野孝浩	東京農工大
委員	大室竹井	N H K	〃	齋藤友里加	東京農工大
〃	室井哲彦	N H K	〃	岩鼻幸男	東京農工大
					事務局

(3) WebIT化委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	高木康博	東京農工大	委員	石井啓二	N H K
代表幹事	深澤知巳	TBSテレビ			

(4) テストチャート委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	井口和久	N H K	委員	石井啓二	N H K
代表幹事	柳原広昌	KDDI総合研究所	〃	伊藤泉	東京工業大学
委員	居相直彦	N H K	〃	岩鼻幸男	事務局長

(5) 映像情報メディア発展事業資金運営委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	並川巖	関西テレビ	委員	高阪洋一	アストロデザイン
代表幹事	菅真紀子	ソニー	〃	柳原広昌	KDDI総合研究所
委員	石井啓二	N H K	〃	居相直彦	N H K

(6) 広報委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	熊澤逸夫	東京工業大学	委員	深澤知巳	TBSテレビ
代表幹事	高木康博	東京農工大学			

(7) 国際連携委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	高木康博	東京農工大学	委員	石井啓二	N H K
代表幹事	深澤知巳	TBSテレビ	〃	居相直彦	N H K

(8) 長期計画検討委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	加藤久和	NHKメディアテクノロジー	幹事	高木康博	東京農工大学
代表幹事	高村誠之	N T T			

(9) 代議員選挙委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	平川秀治		委員	本間康文	TBSテレビ
委員	伊藤崇之	NHK-ES	〃	岩鼻幸男	事務局長

(10) 電気・情報関連学会連絡協議会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員	高村誠之	N T T	委員	石井啓二	N H K

(11) フェロー選定委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	熊澤逸夫	東京工業大学	委員	大槻知明	慶應義塾大学
副委員長	鶴岡信治	三重大学	〃	佐藤雅之	北九州市立大学
幹事	石井啓二	N H K	〃	田川憲男	首都大学
委員	浦野丈治	日本テレビ	〃	樺沢哲	物産グローバル研究所
(代議員)	滝嶋康弘	KDDI総合研究所	〃	堀越力	湘南工科大学
〃	谷口行信	東京理科大学	〃	渡辺裕	早稲田大学
(研究委員会)	浜本隆之	明治大学	(フェロー)	八木伸行	東京都大学
〃	藤崎好英	N H K	〃	新谷幹夫	東邦大学
〃	石井紀彦	N H K			

(12) 名誉会員

氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
泉 武 博 伊 藤 岩 岩 崎 俊 内 池 平 内 田 龍 江 藤 良 榎 並 和 大 久 保 奥 田 友 小 沢 慎	小野寺 正 金出子 武 金沢末 尚 関高田 栄 田武竹 安 畑崎田 文 村 三 村 康 裕 裕 夫 夫	谷 岡 健 吉 谷 本 正 幸 中 嶋 正 之 中 村 慶 宏 中 井 慶 久 永 滑 研 二 西 敏 彦 西 台 次 羽 博 一 羽 光 俊	羽 鳥 好 律 長 谷 川 伸 長 谷 川 明 濱 崎 豊 三 林 島 襄 宏 原 島 敬 吹 拔 輝 晝 馬 康 虫 明 仁 村 上 仁	森 尾 稔 安 田 浩 矢 野 薫 山 田 幸 山 本 英 吉 野 武 David Wood Flaherty Joseph A Om. P. khushu

(13) 北海道支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	藤井大輔	N H K 札幌	運営委員	島 昌 弘	札幌テレビ放送
庶務幹事	村上賢司	N H K 札幌	〃	片野友興	北海道文化放送
〃	横井博士	テレビ北海道	〃	大鐘武雄	北海道大学
会計幹事	白井芳明	N T T 東日本	〃	佐々木正巳	北海道科学大学
〃	樹山英則	北海道テレビ放送	〃	梅 澤 信	北海道科学大学
運営委員	森川悟	北海道放送			北海道総合通信局

(14) 東北支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	鈴木勝浩	N H K 仙台	運営委員	栗木一郎	東北大学
庶務幹事	青木輝勝	東北大学	〃	嵯峨信泉	仙台放送
〃	中尾仁徳	N H K 仙台	〃	佐藤信夫	秋田テレビ
会計幹事	高橋勝徳	東日本放送	〃	塩入秀諭	東北大学
〃	三浦宏之	N H K 仙台	〃	関野秀昭	八戸工業大学
運営委員	今泉真靖	福島テレビ	〃	野地本一裕	N H K 仙台
〃	浦山真靖	宮城テレビ放送	〃	野原秀博	東北工業大学
〃	大宮純	東北インターネット通信	〃	藤村博行	岩手朝日テレビ
〃	加藤純	三菱電機エンジニアリング	〃	道山哲幸	青森テレビ
〃	菊池義鎮	東北総合通信局	〃	村岡裕明	日本大学
〃	金 義鎮	東北学院大学	〃	山岡裕明	東北大学
〃	工藤栄亮	東北工業大学	〃	山鹿俊一	山形放送

(15) 北陸支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	柳原伸司	富山テレビ放送	運営委員	坂本康正	金沢工業大学
庶務幹事	藤井哲志	N H K 金沢	〃	筒井康浩	N T T 西日本
〃	志田晴康	N H K 福井	〃	中嶋芳英	〃
会計幹事	秋田純一	金沢大井学	〃	京村伯則	北陸放送
〃	増田純一	N H K 金沢	〃	佐野孝司	北日本放送
運営委員	高松勉	富山大学	〃	杓野真貴	N H K 富山
〃	吉高淳夫	北陸先端大学	〃		N H K 金沢
〃	吉田俊之	福井大			

(16) 東海支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	村田実	名古屋テレビ放送	運営委員	久保田靖志	NHK名古屋
庶務幹事	丹羽浩樹	NHK名古屋	〃	土屋正勝	総務省東海総合通信局
〃	大場丈樹	総務省東海総合通信局	〃	鈴木木則泰	中京テレビ放送
会計幹事	大野尻健二	CBCテレビ	〃	塚田敏彦	愛知工業大学
〃	服部健敏	NHK名古屋	〃	都竹愛一郎	名城大学
運営委員	青木徹	静岡大学	〃	鶴岡信治	三重大学
〃	石橋豊	名古屋工業大学	〃	野々部英真	テレビ愛知
〃	服部利裕	日本CATV技術協会	〃	宮浦木之次	NHK名古屋
〃	植中裕史	アイシン精機	〃	八木里敬	静岡第一テレビ
〃	小川玉樹	東海テレビ放送	〃	山和	名古屋大学
〃	木島竜吾	岐阜大学	〃		CBCテレビ

(17) 関西支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	吉川勉	三菱電機	運営委員	新田直子	大阪大学
庶務幹事	猪又憲治	三菱電機	〃	井上明彦	シャープ
〃	山崎秀人	読売テレビ放送	〃	高橋秀也	大阪市立大学
会計幹事	宮崎大介	大阪市立大学	〃	高橋史昭	近畿総合通信局
〃	伊藤孝行	パナソニック	〃	中島良隆	読売テレビ放送
運営委員	加藤靖男	テレビ大阪	〃	並川威史	関西テレビ放送
〃	酒澤茂之	大阪工業大学	〃	新藤田玄	朝日放送
〃	稲垣尋喜	パナソニック	〃	藤田芳知	大阪電気通信大学
〃	関正巳	住友電気工業	〃	中村秀行	三菱電機
〃	杜偉一	京都工芸繊維大学	〃	土井雅和	NHK大阪
〃	宮本伸仁	和歌山大学	〃	森本	兵庫県立大学
〃	永松良仁	毎日放送			

(18) 中国支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	飯塚正人	NHK広島	運営委員	佐々木輝彦	テレビ新広島
庶務幹事	栗田多喜夫	広島大学	〃	高橋賢	広島市立大学
〃	山野浩司	NHK広島	〃	高芳重雄	山口朝日放送
会計幹事	新延聡子	広島テレビ	〃	坂田研也	山陽放送
〃	新鳥越強	NHK広島	〃	小平俊憲	広島ホームテレビ
運営委員	高尾忍	山陰中央テレビ	〃	中村正明	広島国際学院大学
〃	高田俊幸	中国総合通信局	〃	中村英紀	テレビ山口
〃	高橋秀明	日本海テレビ	〃	藪田浩雄	中国放送
〃	立川一彦	NHKアイテック	〃	山崎浩介	山口放送
〃	尾関孝史	福山大学	〃	真田浩行	岡山放送
〃	澤見英男	岡山理科大学	〃	秋山長夫	山陰放送

(19) 四国支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	乗松義弘	南海放送	運営委員	小林淳範	テレビ愛媛
庶務幹事	宮本真希	NHK松山	〃	島矢勝久	あいテレビ
〃	毛利文昭	南海放送	〃	今西勝規	愛媛朝日テレビ
会計幹事	横山隆一	NHK松山	〃	竹上章記	高知放送
〃	菅原淳司	あいテレビ	〃	上田正哉	テレビ高知
運営委員	林信秀	総務省四国総合通信局	〃	山下和俊	高知さんさんテレビ
〃	岡本好弘	愛媛大学	〃	岡本和夫	四国放送
〃	河端英一	NHK松山	〃	岩井芳敏	西日本放送

(20) 九州支部

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
支部長	藤井 孝 憲	N H K 福岡	運営委員	赤崎 伸 一	R K B 毎日放送
庶務幹事	松岡 剛 志	九州産業大学	〃	丸尾 龍 彦	F B S 福岡放送
〃	具志堅 淳	N H K 福岡	〃	岡村 昇	T V Q 九州放送
会計幹事	松崎 浩 一	K B C 九州朝日	〃	横田 昌 典	N H K テクノロジーズ
〃	仙波 勝 敏	N H K 福岡	〃	櫻中 茂 雄	N T T 西日本
運営委員	井上 光 平	九州大学	〃	野尻 英 行	九州総合通信局
〃	芹川 聖 一	九州工業大学	〃	上山 田 裕 市	熊本大学
〃	富田 良 彦	テレビ西日本	〃	山室 正 孝	R K K 熊本放送
〃	松崎 功	N B C 長崎放送	〃	藤本 文	長崎大学
〃	小川 重 訓	M B C 南日本放送	〃	渡邊 睦 三	鹿児島大学
〃	春 口 誠	M R T 宮崎放送		猪 俣 知	O B S 大分放送

(21) 技術委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	谷本正	名古屋大学	委員	石井利樹	日立
幹事	亀山幸	早稲田大学	〃	島崎浩	パナソニック
〃	柳原広	KDDI総合研究所	〃	浜本隆	東京理科大学
特別理事	居相直	NHK	〃	藤崎好	NHK
委員	鶴岡彦	三重大学	〃	石井英	NHK
〃	井信治	NHK	〃	大槻知	慶應義塾大学
〃	阪啓洋	アストロデザイン	〃	佐藤明	北九州市立大学
〃	伊藤一	東京工業大学	〃	田川男	首都大学
〃	神田文	NHK	〃	向井彦	東京都市大学
〃	佐藤真	国立情報学研究所	〃	権澤哲	サンブリッジグローバルベンチーズ
〃	大口一	TBSテレビ	〃	堀越力	湘南工科大学
〃	福本正義	NEC	〃	渡辺裕	早稲田大学

<研究委員会>

(22) 情報センシング研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	浜本隆	東京理科大学	委員	山本洋夫	浜松ホトニクス
副委員長	秋田純	金沢大学	〃	小表昌賢	キヤノンス
〃	廣瀬裕	パナソニック	〃	近藤久	富士ゼロックス
幹事	池辺将	北海道大学	〃	樽木征	オリンパス
〃	小室孝	埼玉大学	〃	船津久	東芝
〃	下村和弘	立命館大学	〃	足立平	NHK
〃	香川景一郎	静岡岡大学	〃	足高理	オリンパス
〃	徳田嵩	奈良先端科学技術大学院大学	〃	大藤俊	ブリルニクスジャパン
〃	黒田理人	東北大学	〃	柊澤久	三菱電機
〃	為村成亨	NHK	〃	西木靖	ソニーセミコンダクタソリューションズ
〃	佐藤俊明	オン・セミコンダクター	〃	山西山	ニコン
〃	山下雄一郎	TSMC			

(23) メディア工学研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	田川憲男	首都大学東京	委員	谷沢昭行	東芝
幹事	新井啓之	NIT	〃	東海彰吾	福井大学
〃	村松正吾	新潟大学	〃	入部百合	愛知県立大学
〃	広明敏彦	NEC	〃	平野晃昭	関東学院大学
委員	望月貴裕	NHK	〃	市毛弘一	横浜国立大学
〃	奥田正浩	北九州市立大学	〃	大久保英彦	NHK
〃	篠田一馬	宇都宮大学	〃	金子宗太郎	富士通研究所
〃	多田昌裕	近畿大学	〃	八木伸行	東京都市大学
〃	青木義満	慶應義塾大学	〃	北川正理	東京農工大学
〃	根岸博康	三菱電機	顧問	春日正男	作新学院大学
〃	Mehrdad Panahpour Tehran	名古屋大学	〃	大塚作佳	鹿児島大学
〃	伊藤康一	東北大学	〃	外村佳仁	龍谷大学
〃	田良島周平	NIT	〃	貴倉仁志	首都大学東京
〃	城堅誠	ソニーセミコンダクタソリューションズ	〃	上倉一俊	東京工芸大学
〃	河村圭	KDDI総合研究所	〃	吉田和	福井大学
〃	渡邊修	拓殖大学	〃	村上美	愛知県立大学
〃	小川貴弘	北海道大学	〃	長谷山	北海道大学
〃	曾我麻佐子	龍谷大学			

(24) マルチメディアストレージ研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	石井紀彦	N H K	委員	多田行伸	日立LGデータストレージ
幹事	石川前治	マクセル	〃	関口伸通	NECエスアイ
〃	武者敦史	富士フイルム	〃	大竹充光	横浜国立大学
〃	竹下伸夫	三菱電機	〃	大田中輝	九州大学
〃	室井哲彦	N H K			

(25) 情報ディスプレイ研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	藤崎好英	N H K	委員	小村真一	ジャパンディスプレイ
副委員長	木村宗弘	長岡技術科学大学	〃	小佐藤智一	電気通信大学
幹事	馬場雅裕	東芝	〃	志賀水貴	N H K
〃	山北裕文	J O L E D	〃	清水平	静岡大学
〃	奥田悟嵩	三菱電機	〃	下白松	静岡大学院
〃	中村篤志	静岡大学	〃	白鈴木幸樹	東芝
〃	石鍋隆宏	東北大学	〃	鈴木睦成	日立
〃	山吉雅浩	東京工業大学	〃	鈴木史秀	メルク
幹事補佐	田山健太郎	シャープ	〃	陶関朗	徳島大学
〃	奥井武順	ジャパンディスプレイ	〃	関谷史秀	八戸工業大学
〃	薄谷川拓哉	N H K	〃	染平和泰	三菱電機
委員	別井圭一	日立	〃	高津橋	東工学院
〃	中嶋宜樹	N H K	〃	津村誠士	日形大学
〃	足立昌哉	ジャパンディスプレイ	〃	任井省平	鳥取大学
〃	佐藤弘次	N H K	〃	苗村章洋	三菱電機
〃	沼尾孝夫	東北大学	〃	長瀬西一郎	静岡大学
〃	藤掛朗	N T	〃	根西陽一	静岡大学
〃	小澤敏啓	静岡工業大学	〃	根中義拓	静岡大学
〃	石井二剛	N H K	〃	畑中芳一	日本印刷
〃	伊藤伸樹	東芝	〃	平野芳昇	N H K
〃	上村文四郎	産業技術総合研究所	〃	福田一	新神戸電機
〃	上村文四郎	神奈川工科大学	〃	古橋本隆	金沢工業大学
〃	後沢瑞芳	N H K	〃	三上柴	ジャパンディスプレイ
〃	内池平樹	N H K	〃	御子三	NECビューテクノロジー
〃	内田龍男	大山商事	〃	三橋上	金沢工業大学
〃	大沢通光	仙台高等専門学校	〃	宮村隆明	尚美学園大学
〃	大岡観徳	工業所有権協力センター	〃	村上哲由	東北工業大学
〃	奥田繁一郎	名城大学	〃	本山上	N H K
〃	奥村庄一	ニッパ	〃	山口本	N H K
〃	奥村彦生	東芝	〃	山本元	N H K
〃	小栗康生	ダイヤリサーチマーテック	〃	山分大	オプト・システム
〃	小面谷秀	東海大学	〃	大小	N H K
〃	蒲生信典	凸版印刷	顧問	石島健	ジャパンディスプレイ
〃	窪田典悟	成蹊大学	〃	健昭	
〃	栗田泰市郎	N H K	〃	昭浩	
〃	小林介志	山口東京理科大学	〃		
〃	小牧洋俊	鳥取大学	〃		
〃		パナソニック	〃		

(26) 放送技術研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	大槻知明	慶應義塾大学	(無線光)	齊藤一幸	千葉大学
副委員長	斎藤恭一	N H K	〃	伴泰次	住友電気工業
〃	春日康志	テレビ朝日	〃	宮野真由子	東芝インフラシステムズ
幹事	田中祥次	N H K	〃	武居真裕	日立国際電気
〃	中村円香	N H K	〃	岡田実三	奈良先端科学技術大学院大学
〃	和泉田智志	日本テレビ	〃	松本卓智	古河電気工業
〃	福本正和	N E C	〃	和泉田卓智	日本テレビ
〃	光山彦	N H K	〃	関智弘	日本大学
〃	水本哲	東京工業大学	〃	塩沢隆高	香川高等専門学校
委員	村田英一	京都大学	〃	田中辺行	佐賀大学
(放送・通信方式)	森住俊也	N T T	(放送現業)	渡甲斐創	日本電業工作
〃	竹内真幹	N H K	〃	甲斐斐村	日本テレビ朝日
〃	大内博純	パナソニック	〃	鈴木高享	テレビ朝日
〃	湯川純二	三菱電機	〃	津田宏生	TBSテレビ
〃	杉山賢	成蹊大学	〃	斉藤一裕	N H K
〃	筒井二弘	北海道大学	〃	小島敏	テレビ東京
〃	塩川茂樹	神奈川工科大学	〃	並川	関西テレビ

(27) 映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	向井信彦	京都市大学	委員	竹内幸一	電気通信大学
副委員長	名手久貴	東京工芸大学	〃	田中敏孝	名城大学
幹事	小林裕幸	千葉大学	〃	永江規裕	東京工芸大学
〃	杉本志織	N T T	〃	中野山崎	朝日放送
〃	田中賢一	長崎総合科学大学	〃	野崎秀正	テレビ東京
〃	岡寛一史	N H K	〃	林樹雄	ウヰルサラ大学
委員	Roberto Lopez-Gullier	情報通信研究機構	〃	檜山茂秀	多摩美術大学
〃	秋山雅和	IMAGICA FORCE	顧問	三ッ峰秀樹	N H K
〃	石田武久	凸版印刷	〃	小杉藤信	京都市大学
〃	小黒久史	大日本印刷	〃	佐藤幹夫	湘南工科大学
〃	工藤芳明	大日本印刷	〃	新高谷	東邦大学
〃	久保尋之	キヤノン	〃	高橋川	東京電機大学
〃	白石路雄	東邦大学	〃	吉川	日本大学
〃	高梨伸彰	N E C			

(28) 立体映像技術研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	堀越力	湘南工科大学	委員	柿本正憲	日本SGI
幹事	上原伸一	東芝	〃	坂卷照夫	大日本印刷
〃	氏家弘裕	産業技術総合研究所	〃	佐藤甲信	湘南工科大学
〃	圓藤知博	長岡技術科学大学	〃	志水秀哉	N T T
〃	奥井誠人	情報通信研究機構	〃	高橋秀也	大阪市立大学
〃	掛谷英紀	筑波大学	〃	高谷千正	アストロデザイン
〃	小池崇文	法政大学	〃	谷本幸滋	名古屋大学
〃	陶山史朗	徳島大学	〃	千葉豊彦	シヤープ
〃	高木康博	東京農工大学	〃	新畑田豊	東京電機大学
〃	高田英明	N T T	〃	濱岸五郎	東京眼鏡専門学校
〃	高梨伸彰	N E C	〃	濱宮沢篤	セイコーエプソン
〃	高野邦彦	東京都立産業技術高等専門学校	〃	宮城昭正	東京工芸大学
〃	藤井俊智	名古屋大学	〃	結湯山一	三菱電機
〃	三科智郎	N H K	〃	湯吉浩	宇都宮大学
委員	岩上平	凸版印刷	顧問	吉本捷夫	日本大学
		神奈川工科大学			千葉大学

(29) ヒューマンインフォメーション研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	佐藤 雅之	北九州市立大学	〃	永井 岳大	山形大学
幹事	磯貝 愛	N T T	〃	福田 一帆	工学院大学
〃	近藤 悟	N H K			

(30) アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	樺澤 哲人	サンブリッジグローバルベンチャーズ	委員	谷岡 健吉	カイロス
幹事	山田 一人	法政大学	〃	中村 裕一郎	目白大学
幹事	石綿 宏	エーエスエムエルジャパン	〃	野長瀬 裕二	山形大学
〃	都築 五明	サーバンヘルスケア	〃	原 良	京都大学
〃	松井 正宏	科学技術振興機構	〃	末松 千尋	京都大学
委員	善本 哲夫	立命館大学	〃	林 泰仁	N T T
〃	難波 和秀	技術BP経営研究所	〃	平田 貞子	芝浦工業大学
〃	石井 正純	A Z C A	〃	松本 修一	日本ケーブルラボ
〃	江榎 之雄	一橋大学	〃	安川 秀忠	パナソニック
〃	岡本 剛史	岡田工事部	〃	山本 孝文	IChiKa総合研究所
〃	長内 厚子	早稲田大学	〃	Richard B. Dasher	Stanford University
〃	加賀 有津	大阪大学	顧問	加納 剛太	高知工科大学
〃	陰山 孔貴	獨協大学	〃	倉重 光	高知工科大学
〃	春日 正男	作新学院大学	〃	富沢 治真	高知工科大学
〃	片山 誠之助	住友電気工業	特別委員	平野 紘一	福知山公立大学
〃	川口 盛之助	盛之助	〃	小川 紘清	東京大学
〃	鈴木 祐司	次世代メディア研究所	〃		中央大学
〃	田路 則子	法政大学			

(31) スポーツ情報処理時限研究委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	渡辺 裕	早稲田大学	委員	田邊 智	大阪産業大学
幹事	角田 裕	日本体育大学	〃	中村 正樹	エクオスリサーチ
〃	北原 格	筑波大学	〃	長谷川 純一	中京大学
〃	筒口 拳	N T T	〃	誉田 雅彰	早稲田大学
〃	渡邊 亮	KDDI総合研究所	〃	前田 充	キヤノン
委員	三ッ峰 秀樹	N H K	〃	三上 慎也	N T T
〃	内田 慎理	東海大学	〃	宮崎 地力	中京大学
〃	小鹿 嶋雅	慶應義塾大学	〃	村上 和	愛知県立大学
〃	斎藤 英雄	慶應義塾大学	〃	山田 雅人	中京大学
〃	高橋 佳三	びわこ成蹊スポーツ大学	〃	吉川 文	びわこ成蹊スポーツ大学
〃	瀧 剛志	中京大学	〃	和田 智仁	鹿屋体育大学

(32) 2018年年次大会実行委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	三谷公二	N H K	委員	和泉田智志	日本テレビ
幹事	柳原広昌	KDDI総合研究所	〃	鈴村高幸	テレビ朝日
〃	高村誠之博	N T T	〃	近藤悟	N H K
〃	高木康博	東京農工大学	〃	望月貴裕	N H K
〃	菅真紀子	ソニー	〃	根岸博康	三菱電機
〃	三科智之一	N H K	〃	杉本志織	N T T
委員	秋田純一	金沢大学	〃	石綿宏	エーエスエムエルジャパン
〃	為村成亨	N H K	〃	陶山史朗	徳島大学
〃	馬場雅裕	東芝	〃	高田英明	N T T
〃	竹下伸夫	三菱電機	〃	三ッ峰秀樹	N H K
〃	大内幹博	パナソニック			

(33) 2018年冬季大会実行委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	熊澤逸夫	東京工業大学	委員	岡田実	奈良先端科学技術大学院大学
幹事	居相直彦	N H K	〃	斉藤一	テレビ東京
〃	石井啓二	N H K	〃	磯貝愛	N T T
〃	深澤知巳	TBSテレビ	〃	田良島周	N T T
〃	高阪洋一	アストロデザイン	〃	谷沢昭	東芝
委員	伊藤泉	東京工業大学	〃	盛岡寛	N H K
〃	為村成亨	N H K	〃	石綿宏	エーエスエムエルジャパン
〃	薄武順	N H K	〃	掛谷英	筑波大学
〃	奥村治彦	東芝	〃	渡邊亮	KDDI総合研究所
〃	武村敦史	富士フイルム	〃	柳原広	KDDI総合研究所
〃	竹内真也	N H K			

(34) 編集委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
編集長 副委員長 〃 編集幹事 (企画担当)	八木伸之	東京都市大学	編集幹事 (企画担当)	坂東幸浩	N T T
	三科智	N H K		樋口海里	総務
	伊藤政	東京工業大学		久方瑠美	東京工業大学
	伊泉政	テレビ東京		間下部以祐	大阪大学
	今井ノ上	千葉大学		谷田崎俊彦	東京大学
	岩内直謙	KDDI総合研究所		山崎田男	JVCケンウッド
	内田慎夫	シャープ		山田徹彦	日立
	越後富夫	TBSテレビ		我妻伸大	東邦大学
	大竹井誠	大阪電気通信大学		渡部大志	埼玉工業大学
	奥春日藤合	N H K	(海外文献部門)		
	加河金倉	富士フイルム	部門委員長	松崎康平	KDDI総合研究所
	神掛卓也	早稲田大学	部門副委員長	永井俊	電気通信大学
	小笹島英敏	N H K	部門委員	大塚野一	東芝
	笹川寿清	N E C		菅野一聖	TBSテレビ
	佐々木幸	パナソニック		西木辻天	オルガノサーキット
	佐々木藤	奈良先端大学院大		三沢健	首都大
	→河原邦彦	N H K		宮澤光	三菱電機
	白木厚司	東芝映像ソリューション		涌波喜	N T T
	杉本和憲	東芝映像ソリューション	(ニュース部門)		
	高取野慶丈	千葉大学	部門委員長	浜田宏一	日本テレビ
	寺岡島悠	三菱電機	部門副委員長	中野和	芝
	中長沼本直	ファーウェイ	部門委員	澤谷郁子	N H K
		N E C		→中嶋宜樹	N H K
		拓殖大学		新保豪平	N E C
		大阪大学		野中	KDDI総合研究所
		ソニー			
		電気通信大学			

(35) 論文委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長 アドバイザー 幹事 委員	佐藤洋一 藤木伸一 小川一人 伊藤泉郎 瀧口吉正 森本志整	東京大学 首都大学 N H K 東京工業大学 N H K 愛知工業大学 KDDI総合研究所	(英語論文編集委員会) 委員長 副委員長 委員	佐藤洋一 小川一人 内藤清将 相澤晃誠 飯山一郎 伊丹文典 井手上典 江太田淳弘 小川貴英 掛谷英二 甲藤二一 上倉人二 川倉祥卓 倉掛直樹 清水村佳之 高外伸子 新橋直真 橋本幸紀 長谷山登史 馬場栗健 平科智之 三濃導彦 美田英一 村木伸行 八原昌彦 山崎俊彦 Nam Ik Cho Alexander G. Hauptmann Tae Kyoon Kim Benoit Huet Chong-Wah Ngo Antonio Ortega Jong-Il Park Georges Quenot Stefan Rueger Ming-Hsuan Yang	東京大学 N H K KDDI総合研究所 東京大学 京都大学 東京理科大学 名古屋大学 近畿大学 奈良先端大学院大学 北海道大学 筑波大学 早稲田大学 東京工芸大学 静岡大学 N H K N H K - E S T N T T 龍谷大学 大阪大学 KDDI総合研究所 北海道大学 大阪大学 日本工業大学 N H K 京都大学 京都大学 京都市大学 KDDI総合研究所 東京大学 Seoul National University Carnegie Mellon University E T R I E u r e c o m City University of Hong Kong University of Southern California Hanyang University Laboratory of Informatics of Grenoble The Open University University of California Merced
(和文論文編集委員会) 委員長 副委員長 委員	佐藤洋一 森本正志 瀧口吉郎 青木啓史 池辺将之 石井利樹 石鍋隆宏 市橋保之 伊藤智也 尾山匡浩 河本健一郎 京田文人 齊藤一幸 下ノ村和弘 竹内知明 田中賢一 都築俊満 外山史篤 中平一篤 松宮一道 三浦雅人 三上弾 三ッ峰秀樹 室井哲彦 渡邊修	東京大学 愛知工業大学 N H K N E C 北海道大学 日立 東北大学 情報通信研究機構 八戸工業大学 神戸高専 川崎医療福祉大学 シリコンスタジオ 千葉大学 立命館大学 N H K 長崎総合科学大学 N H K 宇都宮大学 N T T 東北大学 N H K N H K N H K N H K N H K 拓殖大学			

(36) 選奨委員会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
委員長	三谷公二	N H K	委員	神田菊文	N H K
代表幹事	高村誠伸	N T T	〃	春日本康隆	テレビ朝日
〃	八木啓二	東京都市大	〃	浜崎隆好	東京理科大学
〃	石井真紀	N H K	〃	藤石好紀	N H K
〃	菅真洋	ニ	〃	大槻明之	N H K
〃	高阪紀洋	アストロデザイン	〃	佐藤知雅	慶應義塾大学
〃	柳原直智	KDDI総合研究所	〃	田川憲信	北九州市立大学
〃	三科彦之	N H K	〃	向井雅憲	首都大
〃	伊藤泉博	N H K	〃	井沢哲力	東京都大
〃	高木康知	東京工業大	〃	堀越	サンプリッジグローバルベンチャーズ
〃	深澤博巳	東京農工大	〃	渡辺	湘南工科大学
〃		T B S テレビ	〃		早稲田大

(37) 「技術振興賞」 進歩開発賞選考専門部会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
部長	神田菊文	N H K	委員	向井信彦	東京都市大
代表幹事	柳原誠啓	KDDI総合研究所	〃	田川澤誠	首都大
〃	高村井啓二	N T T	〃	樺井誠人	サンプリッジグローバルベンチャーズ
委員	石内藤康志	N H K	〃	奥渡森享	情報通信研究機構
〃	春日直彦	KDDI総合研究所	〃	小島敏功	早稲田大
〃	居相直巳	テレビ朝日	〃	熊野洋一	T B S テレビ
〃	深澤知昌	N H K	〃	奥井俊英	フジテレビ
〃	小崎好紀	T B S テレビ	〃	相羽西樹	ソニー
〃	藤崎井内真也	キヤノン	〃	大佐藤靖	パイオニア
〃	竹内川巖	N H K	〃	宮山	N E C
〃	並野真由子	N H K	〃		JVCケンウッド
〃	宮野之	N H K	〃		パナソニック
〃	佐藤雅之	関西テレビ	〃		日本テレビ
〃		東芝インフラシステムズ	〃		テレビ朝日
〃		北九州市立大	〃		テレビ東

(38) 「技術振興賞」 コンテンツ技術賞選考専門部会

役名	氏名	勤務先	役名	氏名	勤務先
部長	春日康志	テレビ朝日	委員	澤利明	読賣テレビ
代表幹事	久保尋一	奈良先端科学技術大学院大	〃	鈴木木則	中京テレビ
〃	高阪洋享	アストロデザイン	〃	奥野稔	朝日放送テレビ
委員	森藤宏泉	T B S テレビ	〃	新井田耕	名古屋テレビ
〃	伊藤知貴	東京工業大	〃	山下清尚	毎日放送
〃	深澤和生	T B S テレビ	〃	松野海路	R K B 毎日放送
〃	津田徹義	N H K	〃	平野敏肇	テレビ大
〃	藤原和義	日本テレビ	〃	奥村川	テレビ愛知
〃	内田慎一	テレビ朝日	〃	小宮崎	関西テレビ
〃	鳥飼雄裕	T B S テレビ	〃	山宮	東海テレビ
〃	小島敏秀	テレビ東京	〃		日立国際電気
〃	土井行淳	フジテレビ	〃		東芝インフラシステムズ
〃	具志堅淳	N H K 大	〃		N E C
〃		N H K 福			

